

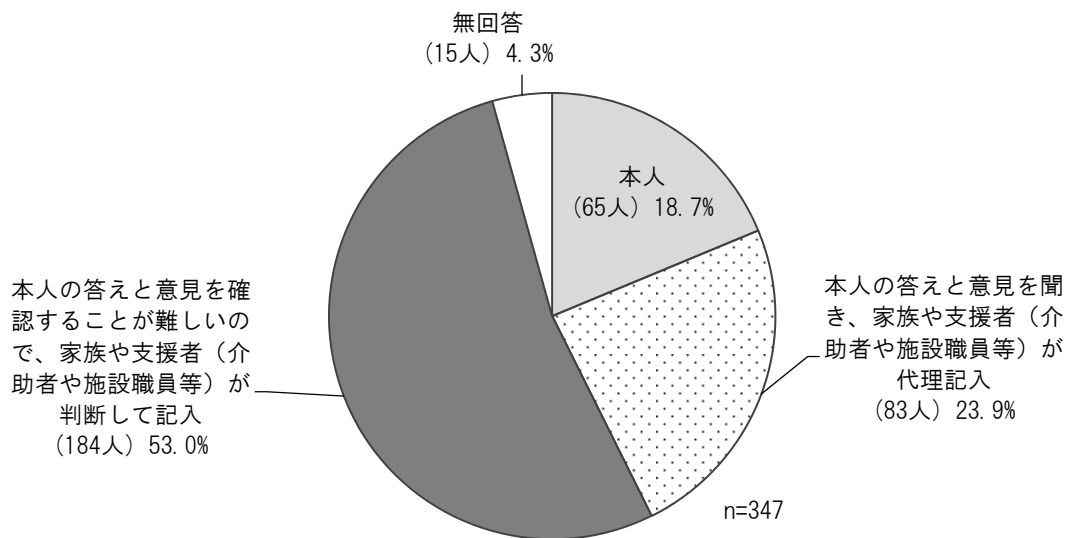
第4章 障害者福祉に関する調査結果（B知的障害者）

1 調査票の記入者

問 30 この調査票に記入していただいたのはどなたですか。（1つに○）

調査票の記入者は、「本人の答えと意見を確認することが難しいので、家族や支援者（介助者や施設職員等）が判断して記入」が53.0%で最も高く、次いで「本人の答えと意見を聞き、家族や支援者（介助者や施設職員等）が代理記入」が23.9%、「本人」は18.7%となっています。

図 調査票の記入者

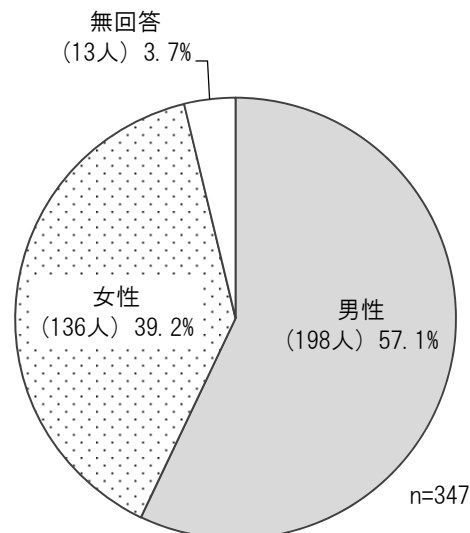


2 回答者の属性

問 30 あなたの性別をお答えください。（1つに○）

性別は、「男性」が57.1%、「女性」が39.2%となっています。

図 性別



問 32 あなたの年齢（平成 28 年 10 月 1 日現在の満年齢）はおいくつですか。

年齢は、「18～29 歳」が 29.4%で最も高く、次いで「6～14 歳」が 17.0%となっており、18 歳未満は 28.5%となっています。

図 年齢

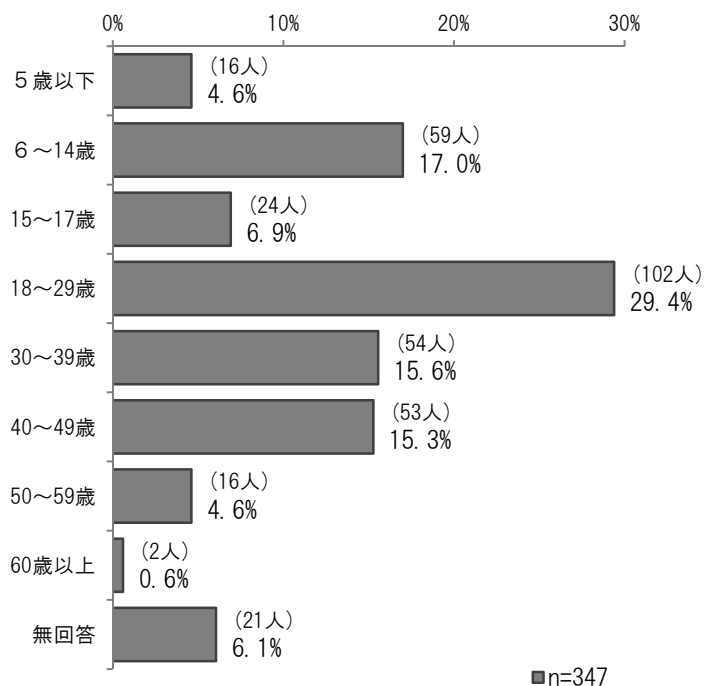


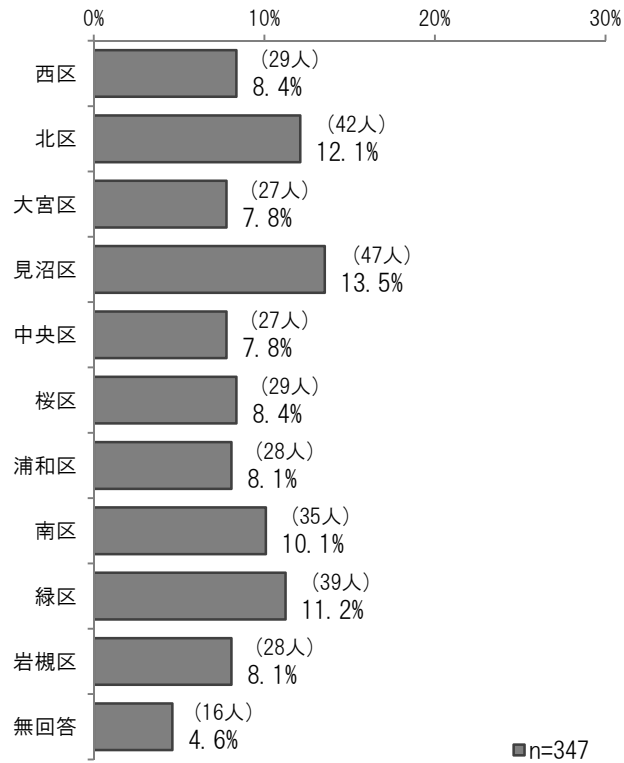
表 年齢／性別

	全体		男性		女性		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
5歳以下	16	4.6	11	5.6	5	3.7	0	0.0
6～14歳	59	17.0	38	19.2	21	15.4	0	0.0
15～17歳	24	6.9	15	7.6	9	6.6	0	0.0
18～29歳	102	29.4	59	29.8	43	31.6	0	0.0
30～39歳	54	15.6	31	15.7	22	16.2	1	7.7
40～49歳	53	15.3	34	17.2	19	14.0	0	0.0
50～59歳	16	4.6	6	3.0	9	6.6	1	7.7
60歳以上	2	0.6	0	0.0	2	1.5	0	0.0
無回答	21	6.1	4	2.0	6	4.4	11	84.6
全体	347	100.0	198	100.0	136	100.0	13	100.0

問 33 あなたが現在住んでいる地区（市外に住んでいる方はその前に市内に住んでいた地区）はどこですか。（1つに○）

居住地区は、「見沼区」が13.5%で最も高く、次いで「北区」が12.1%、「緑区」が11.2%となっています。

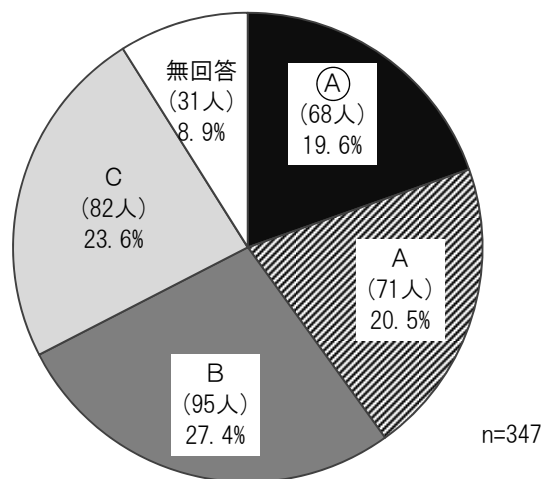
図 居住地区



問 34 あなたが、現在お持ちの障害者手帳の等級は何級ですか。
（1）療育手帳

療育手帳を持っている人は、「B」が27.4%で最も高く、次いで「C」が23.6%、「A」が20.5%となっています。

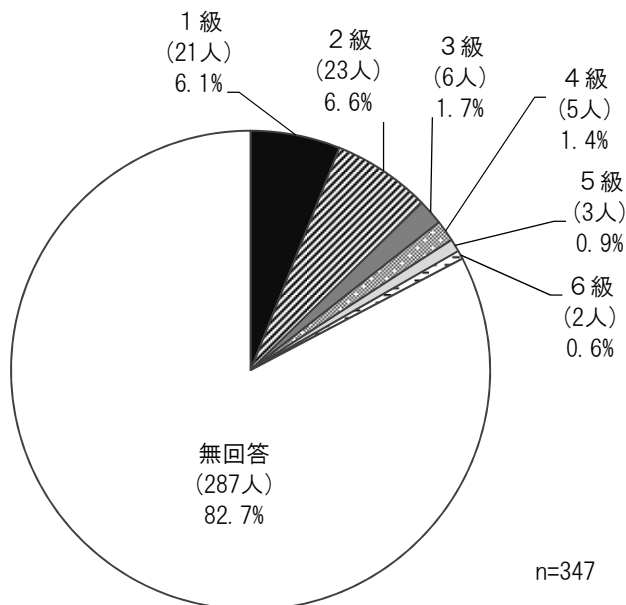
図 療育手帳の等級



（2）身体障害者手帳（総合等級）

身体障害者手帳の総合等級は、「2級」が6.6%、「1級」が6.1%となっています。

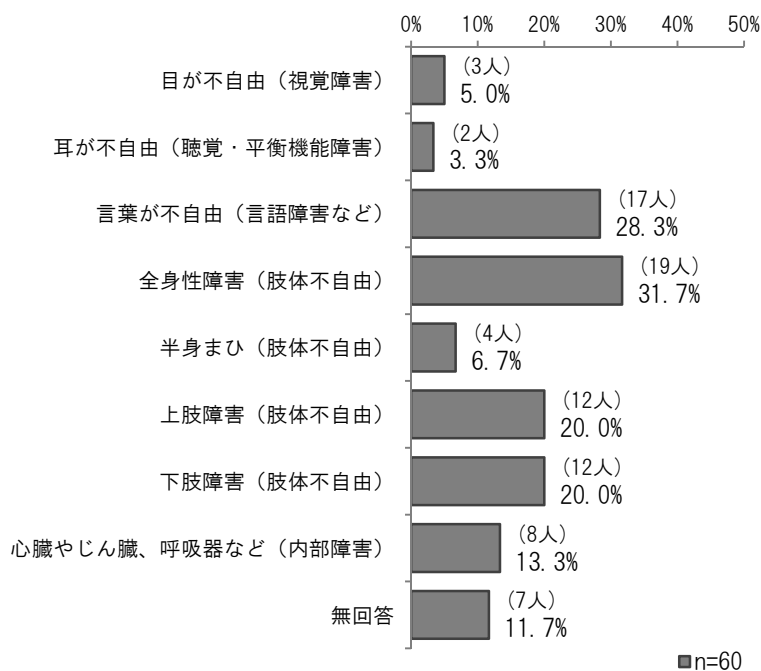
図 身体障害者手帳（総合等級）



**（2）-1 【身体障害者手帳をお持ちの方】
どのような障害がありますか。（すべてに○）**

身体障害者手帳を持っている60人の身体障害の種類は、「全身性障害（肢体不自由）」が31.7%で最も高く、次いで「言葉が不自由（言語障害など）」が28.3%となっています。

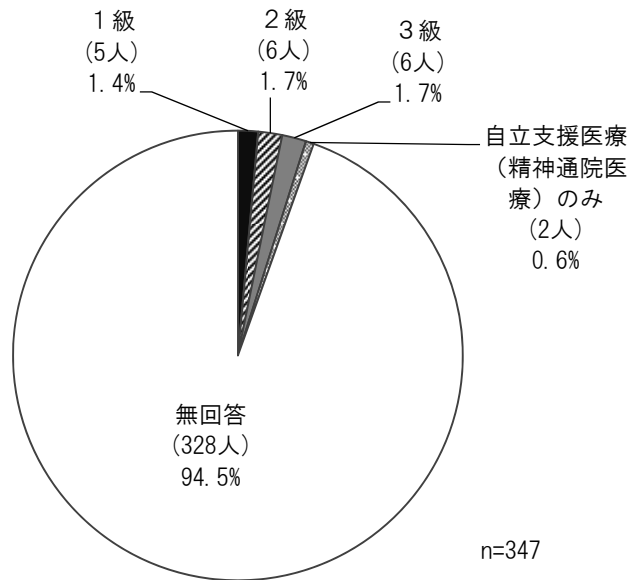
図 身体障害の種類（複数回答）



（3）精神障害者保健福祉手帳

精神障害者保健福祉手帳を持っている人は、「1級」が1.4%、「2級」「3級」がともに1.7%となっています。

図 精神障害者保健福祉手帳の等級

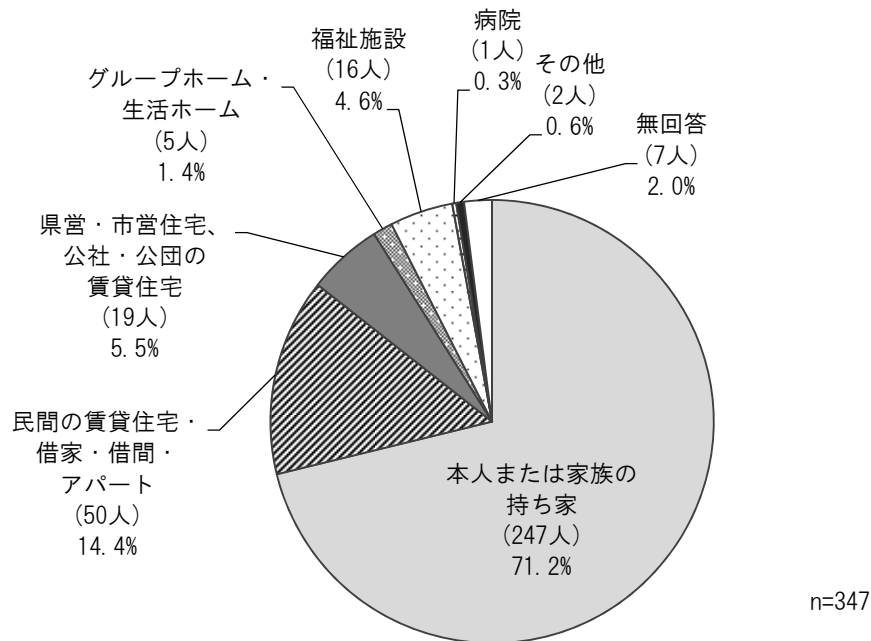


3 住む場所について

問1 あなたは、どこで生活していますか。（1つに○）

生活の場所は、「本人または家族の持ち家」が71.2%で最も高くなっています。

図 生活の場



問2 【問1で「本人または家族の持ち家」「民間の賃貸住宅・借家・借間・アパート」「県営・市営住宅、公社・公団の賃貸住宅」「その他」と答えた方】あなたは、誰と一緒に生活していますか。（すべてに○）

一緒に生活している人は、「父または母」が93.4%で最も高く、次いで「その他の親族」が23.6%となっています。

図 一緒に生活している人（複数回答）

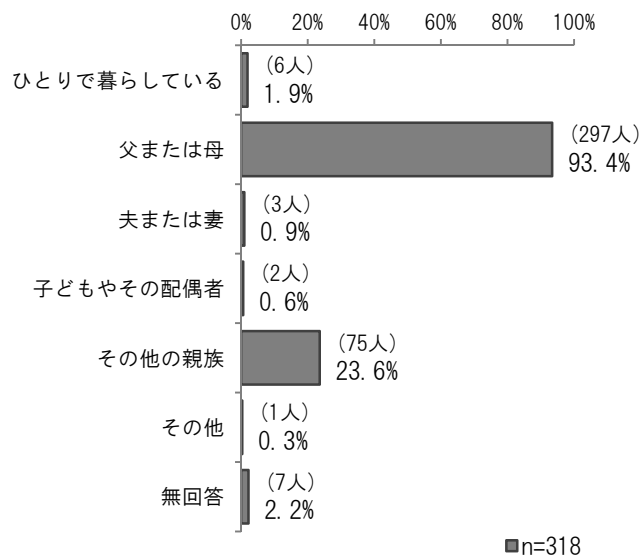


表 一緒に生活している人（複数回答）／年齢別

	5歳以下		6～14歳		15～17歳		18～29歳	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ひとりで暮らしている	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
父または母	16	100.0	56	98.2	24	100.0	93	97.9
夫または妻	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
子どもやその配偶者	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他の親族	4	25.0	12	21.1	8	33.3	32	33.7
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	0	0.0	1	1.8	0	0.0	1	1.1
全体	16	100.0	57	100.0	24	100.0	95	100.0

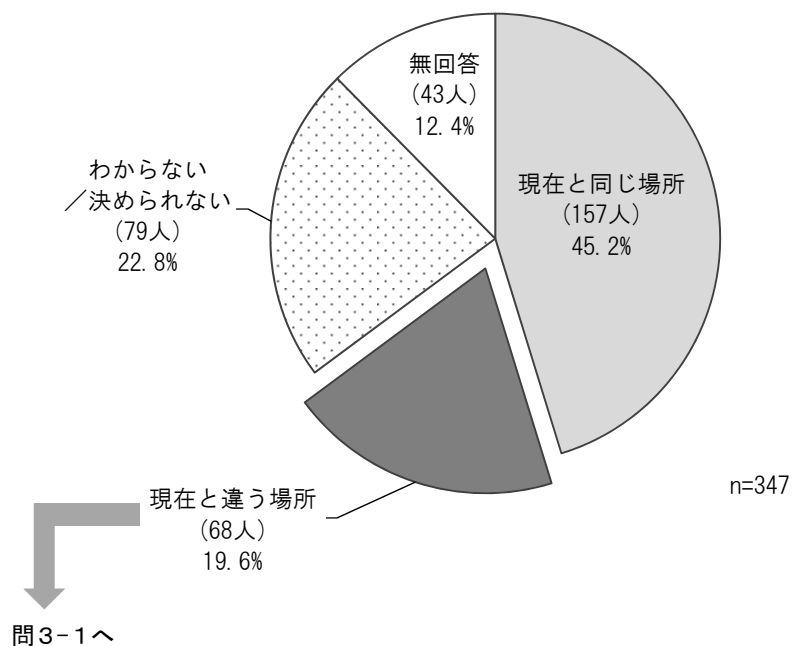
	30～39歳		40～49歳		50～59歳		60歳以上	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ひとりで暮らしている	3	6.1	2	4.7	1	7.1	0	0.0
父または母	42	85.7	37	86.0	10	71.4	1	100.0
夫または妻	0	0.0	1	2.3	2	14.3	0	0.0
子どもやその配偶者	0	0.0	1	2.3	1	7.1	0	0.0
その他の親族	7	14.3	4	9.3	3	21.4	0	0.0
その他	0	0.0	1	2.3	0	0.0	0	0.0
無回答	4	8.2	1	2.3	0	0.0	0	0.0
全体	49	100.0	43	100.0	14	100.0	1	100.0

※年齢の無回答は掲載を省略

問3 あなたは、今後（未成年の方は成人になったら）どこで暮らしたいですか。
（1つに○）

今後暮らしたい場所は、「現在と同じ場所」が45.2%で最も高く、「現在と違う場所」が19.6%となっています。

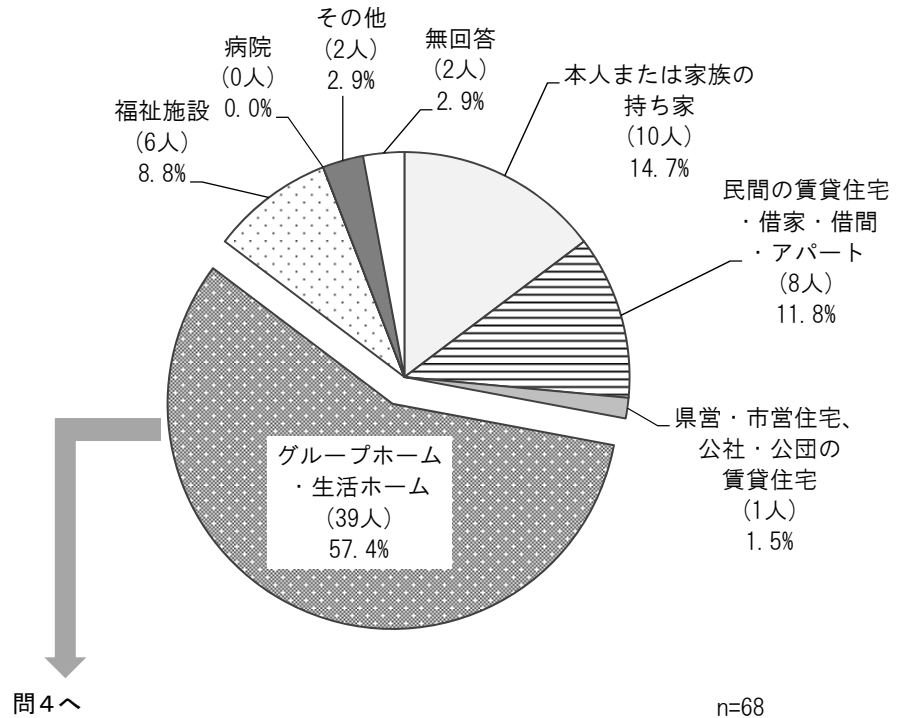
図 今後暮らしたい場所



問3-1 「現在と違う場所」と答えた方は、どこで暮らしたいですか。（1つに○）

現在と違う場所と回答した68人の暮らしたい場所は、「グループホーム・生活ホーム」が57.4%で最も高く、次いで「本人または家族の持ち家」が14.7%となっています。

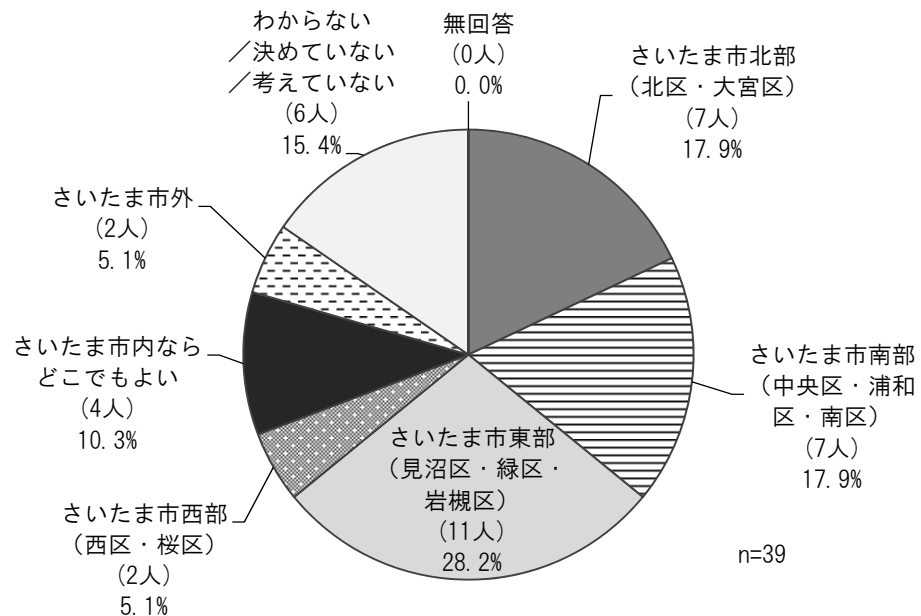
図 【現在と違う場所で暮らしたい人】希望する場所



問4 【問3-1で「グループホーム・生活ホーム」と答えた方にお聞きします。】グループホーム・生活ホームをどの地域で利用することを考えていますか。（1つに○）

グループホーム・生活ホームで暮らしたいと回答した39人の希望する地域は、「さいたま市東部（見沼区・緑区・岩槻区）」が28.2%、「さいたま市北部（北区・大宮区）」「さいたま市南部（中央区・浦和区・南区）」がともに17.9%となっています。

図 【グループホーム・生活ホームで暮らしたい人】希望する地域

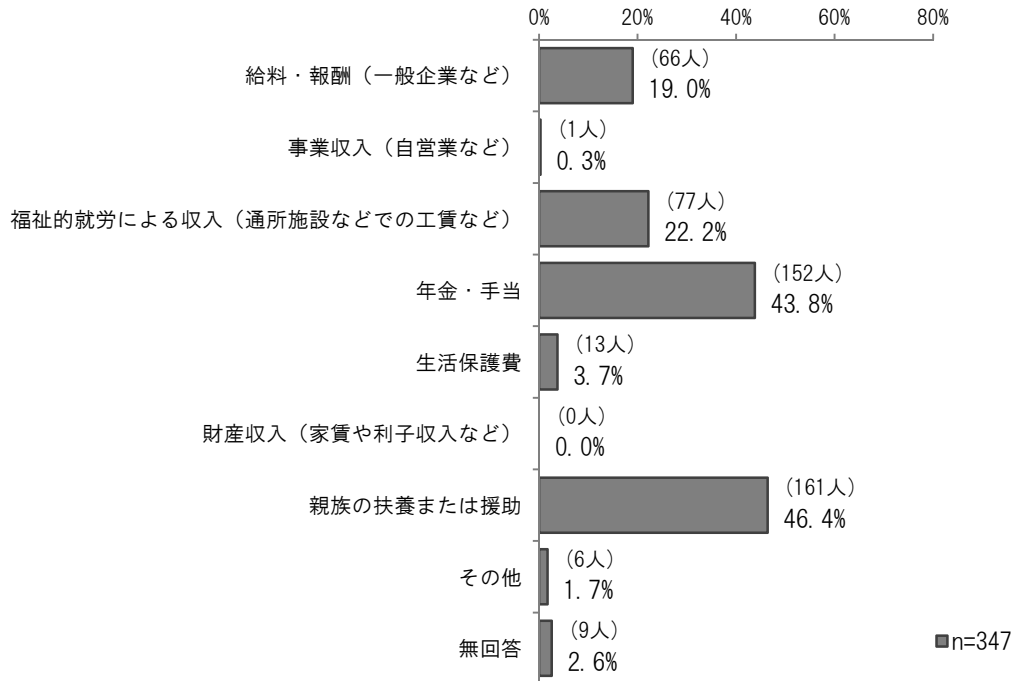


4 収入の状況について

問5 あなたの収入は次のうちどれですか。（すべてに○）

主な収入は、「親族の扶養または援助」が46.4%で最も高く、次いで「年金・手当」が43.8%、「福祉的就労による収入（通所施設等での工賃など）」が22.2%となっています。

図 収入（複数回答）

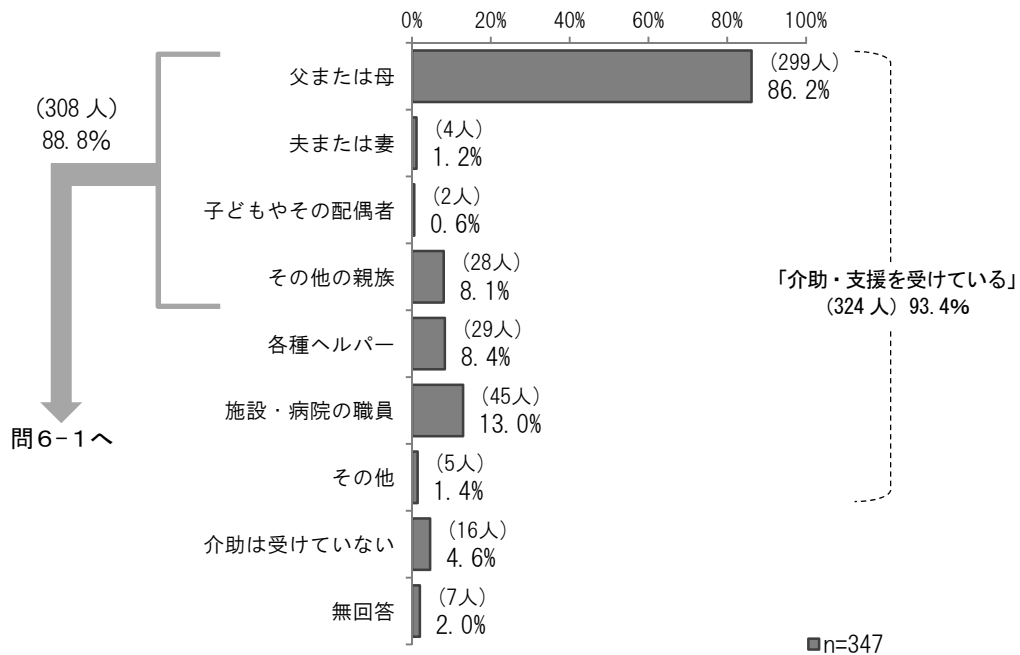


5 日常生活の状況について

問6 あなたの主な介助者（支援者）は、どなたですか。（2つまで○）

主な介助・支援を受けている方は、93.4%となっており、主な介助者は「父または母」が86.2%で最も高く、次いで「施設・病院の職員」が13.0%となっています。

図 主な介助者（支援者）（複数回答）



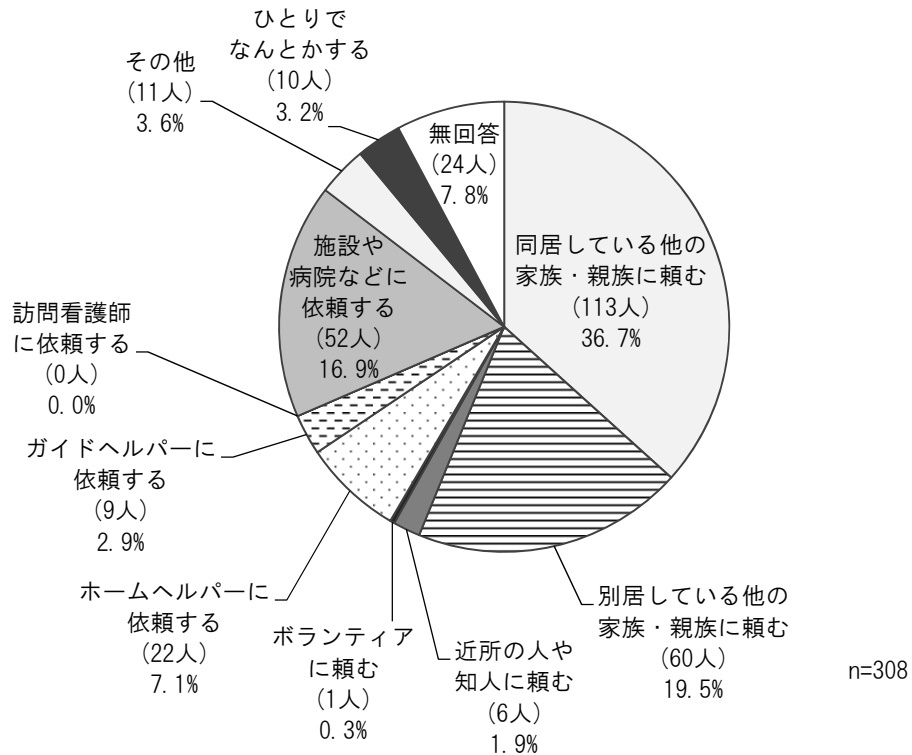
※「介助・支援を受けている」 = 100% - 「介助は受けていない」 - 「無回答」

問6-1 【問6で「父または母」「夫または妻」「子どもやその配偶者」「その他の親族」と答えた方にお聞きします。】

あなたが主な介助者（支援者）から介助（支援）を受けられないときはどうしますか。（1つに○）

主に親族から介助・支援を受けている308人の受けられないときの対処は、「同居している他の家族・親族に頼む」が36.7%で最も高く、次いで「別居している他の家族・親族に頼む」が19.5%となっています。

図 【主に親族から介助・支援の受けている人】
主な介助者（支援者）から介助（支援）受けられないときの対処



**問7 あなたは毎日の生活の中で次のようなことが不安なく自分でできますか。
（それぞれ1つに○）**

日常生活動作の状況で、「ひとりでできる」は「家の中での移動」が85.0%、「身のまわりのこと」が48.7%で高くなっています。一方、「すべてに支援が必要」は「銀行等での手続き」が72.6%、「お金の管理」が66.6%、「通院」が64.0%で高くなっています。

図 日常生活動作の状況

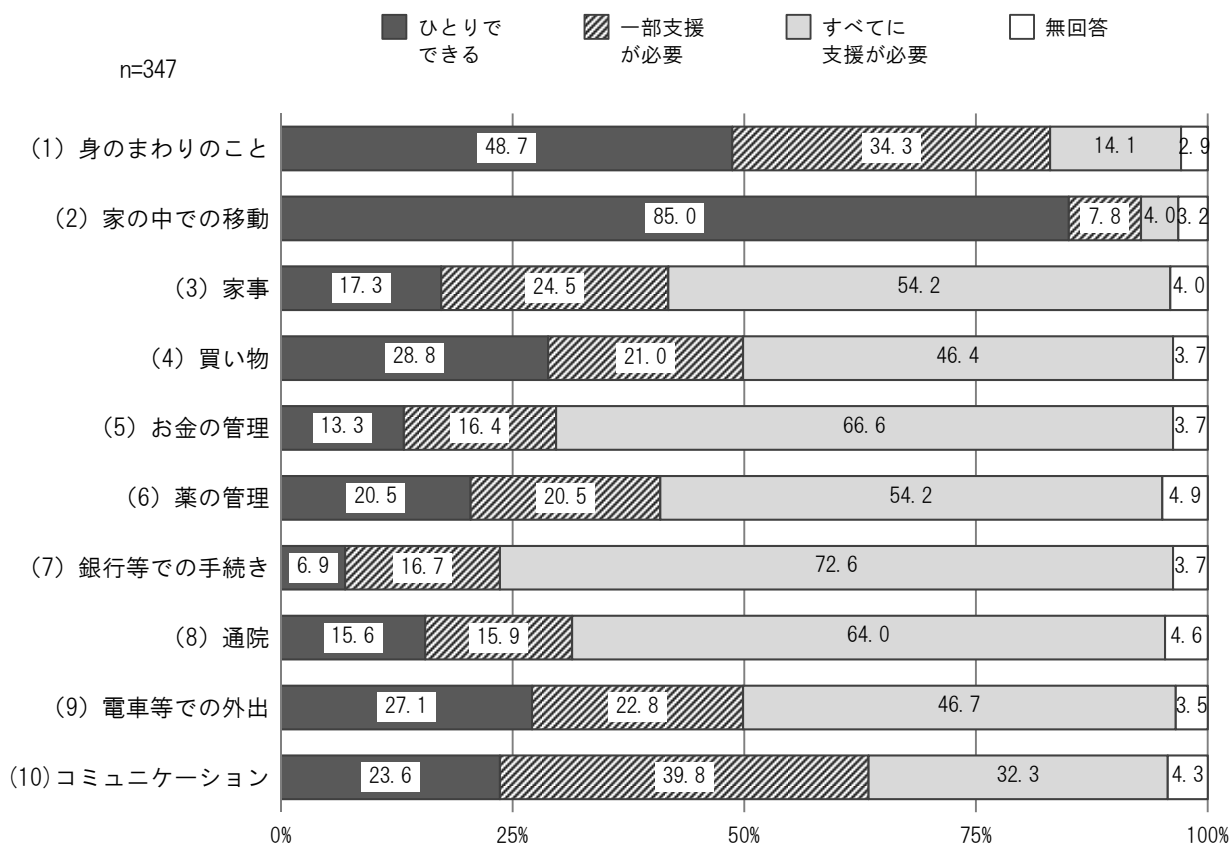


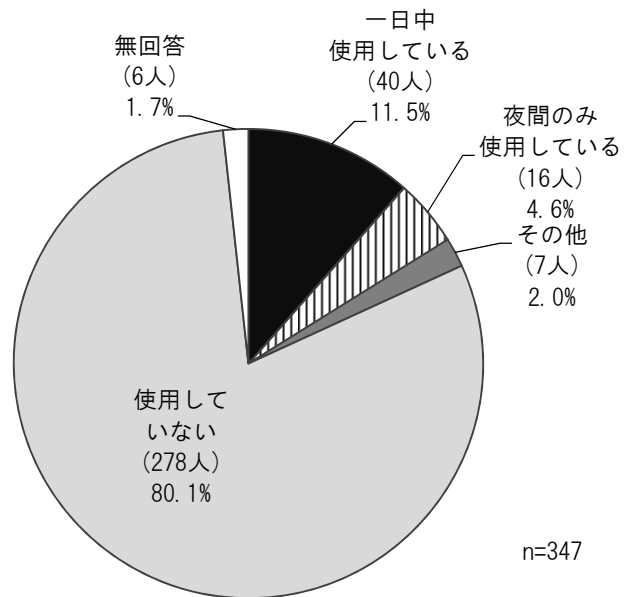
表 日常生活動作の状況

	回答者数 (人)	ひとりでできる		一部支援が必要		すべてに支援が必要		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
(1) 身のまわりのこと	347	169	48.7	119	34.3	49	14.1	10	2.9
(2) 家の中での移動	347	295	85.0	27	7.8	14	4.0	11	3.2
(3) 家事	347	60	17.3	85	24.5	188	54.2	14	4.0
(4) 買い物	347	100	28.8	73	21.0	161	46.4	13	3.7
(5) お金の管理	347	46	13.3	57	16.4	231	66.6	13	3.7
(6) 薬の管理	347	71	20.5	71	20.5	188	54.2	17	4.9
(7) 銀行等での手続き	347	24	6.9	58	16.7	252	72.6	13	3.7
(8) 通院	347	54	15.6	55	15.9	222	64.0	16	4.6
(9) 電車等での外出	347	94	27.1	79	22.8	162	46.7	12	3.5
(10) コミュニケーション	347	82	23.6	138	39.8	112	32.3	15	4.3

問8 あなたは、普段の生活で紙おむつを使用していますか。（1つに○）

紙おむつの使用状況は、「使用していない」が80.1%で最も高くなっています。一方、「一日中
使用している」は11.5%となっています。

図 紙おむつの使用

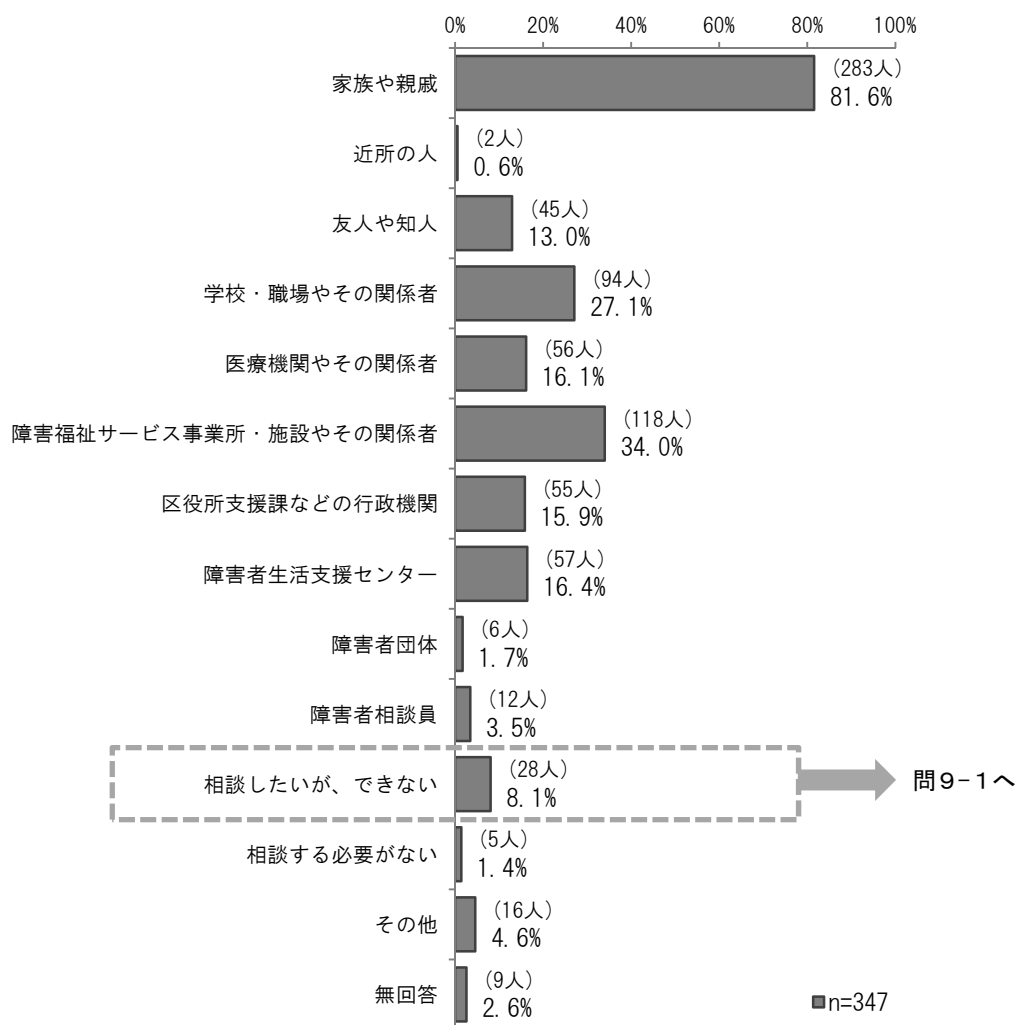


6 相談について

問9 相談する相手はどなたですか。（すべてに○）

相談相手は、「家族や親戚」が81.6%で最も高くなっています。一方、「相談したいが、できない」が8.1%となっています。

図 相談相手（複数回答）



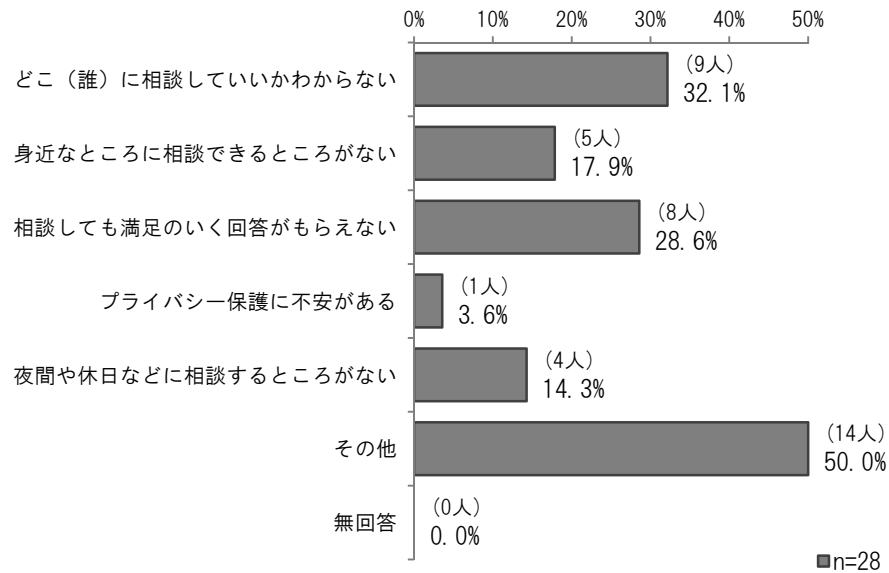
「その他」の主な内容

- ・命の電話。
- ・相談する能力がない。
- ・まだ、話すことが出来ないので親がしている。

**問9-1 【問9で「相談したいが、できない」と答えた方にお聞きします。】
相談できない理由は何ですか。（すべてに○）**

相談したいが、できないと回答した28人の理由は、「どこ（誰）に相談していいかわからない」が32.1%、「相談しても満足いく回答がもらえない」が28.6%となっています。また、「その他」の回答では、「言葉で表現することができない・話せない」「知的な問題でコミュニケーションがとれない」などとなっています。

図 相談したいが、できない理由（複数回答）



「その他」の主な内容

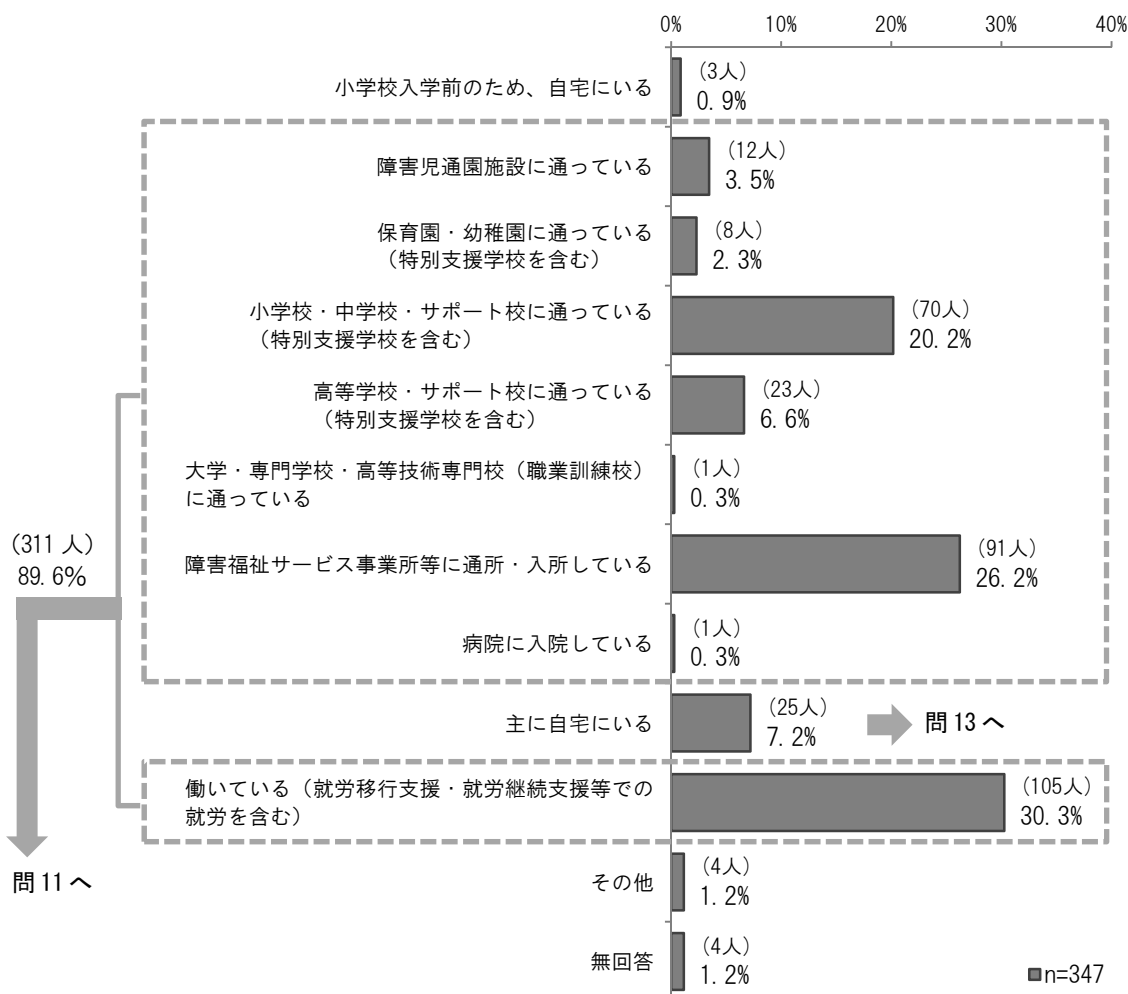
- ・言葉で表現することができない・話せない、コミュニケーションがとれない
- ・マンションなので人と接しない
- ・医師、ケースワーカーにいても、こちらに言われても困る、と言われた
- ・施設で一日のスケジュールが決まっている

7 昼間の活動の場について

問10 あなたは、平日の昼間、どのように過ごしていますか。（1つに○）

平日の昼間の過ごし方は、「働いている（就労移行支援・就労継続支援等での就労を含む）」が30.3%で最も高く、次いで「障害福祉サービス事業所等に通所・入所している」が26.2%、「小学校・中学校・サポート校に通っている（特別支援学校を含む）」が20.2%となっています。

図 平日の昼間の過ごし方

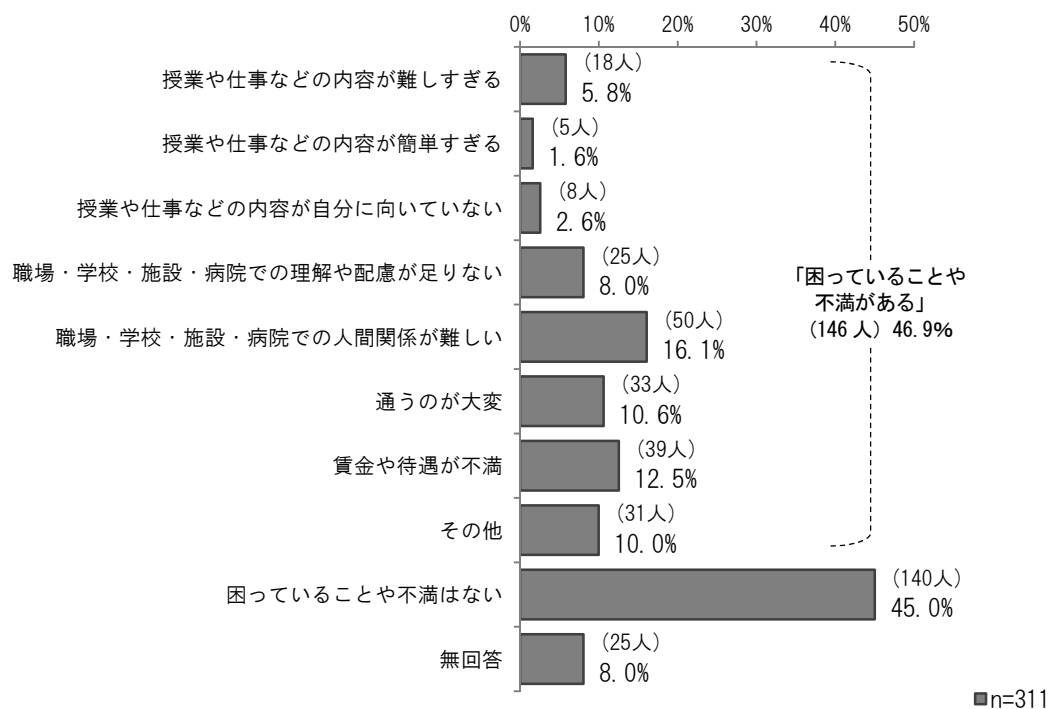


問 11 【問 10 で「障害児通園施設に通っている」「保育園・幼稚園に通っている」「小学校・中学校・サポート校に通っている」「高等学校・サポート校に通っている」「大学・専門学校・高等技術専門学校（職業訓練校）に通っている」「障害福祉サービス事業所等に通所・入所している」「病院に入院している」「働いている」と答えた方にお聞きします。】

あなたは、活動の場について困っていることや不満がありますか。（すべてに○）

上記に回答した 311 人の活動の場で困っていることや不満に思うことは、「困っていることや不満はない」が 45.0%に対し、「困っていることや不満がある」は 46.9%となっています。困っていることや不満があると回答した 146 人の内容は、「職場・学校・施設・病院での人間関係が難しい」が 16.1%、「賃金や待遇が不満」が 12.5%、「通うのが大変」が 10.6%となっています。

図 活動の場で困っていることや不満に思うこと（複数回答）

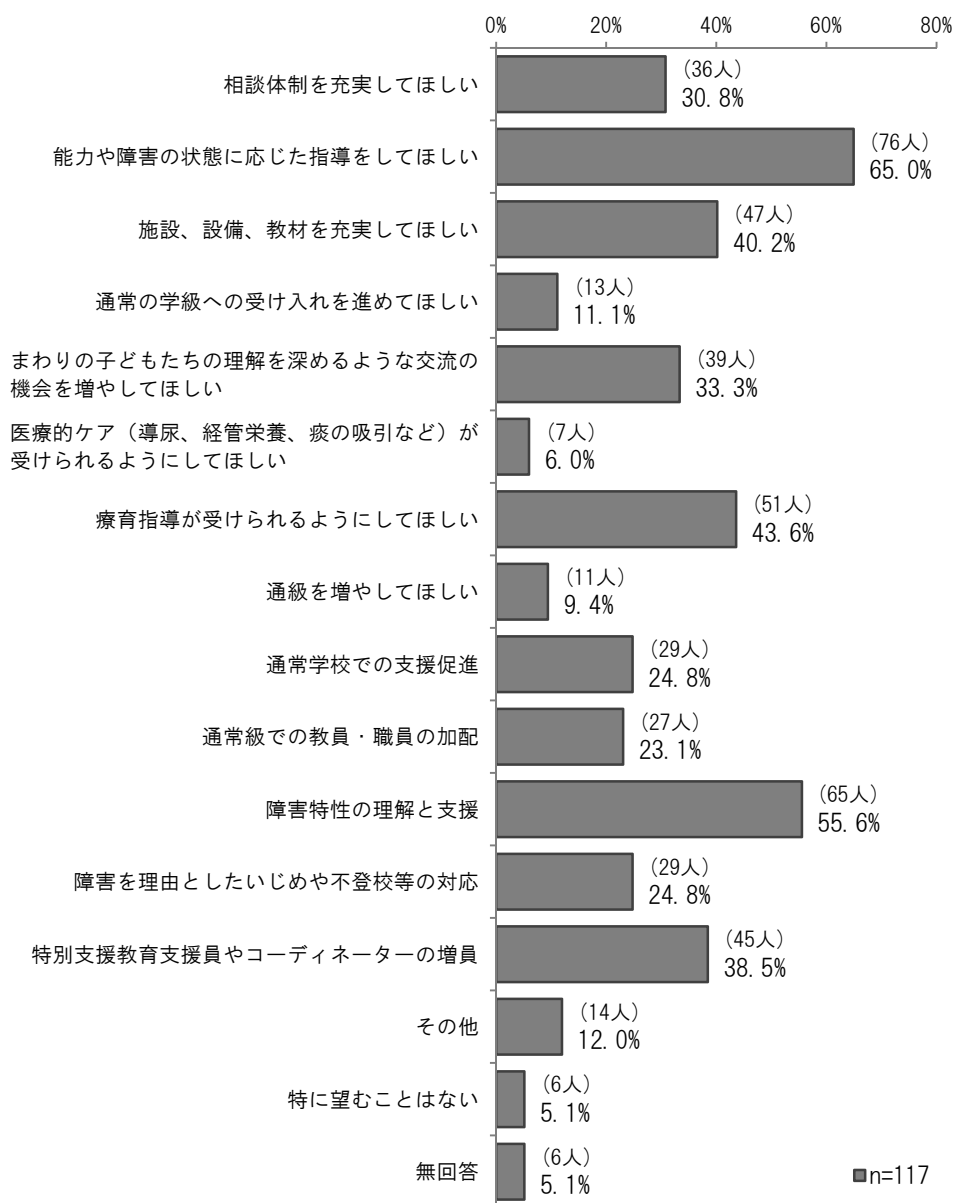


※「困っていることや不満がある」=100%－「困っていることや不満はない」－「無回答」

**問 12 【障害や難病のあるお子さんをお持ちの保護者の方にお聞きします。】
幼稚園、保育園、学校に望むことは何ですか。（すべてに○）**

障害や難病のある子どもを持つ保護者 117 人の幼稚園、保育園、学校に望むことは、「能力や障害の状態に応じた指導をしてほしい」が 65.0%で最も高く、「障害特性の理解と支援」が 55.6%、「療育指導が受けられるようにしてほしい」が 43.6%となっています。

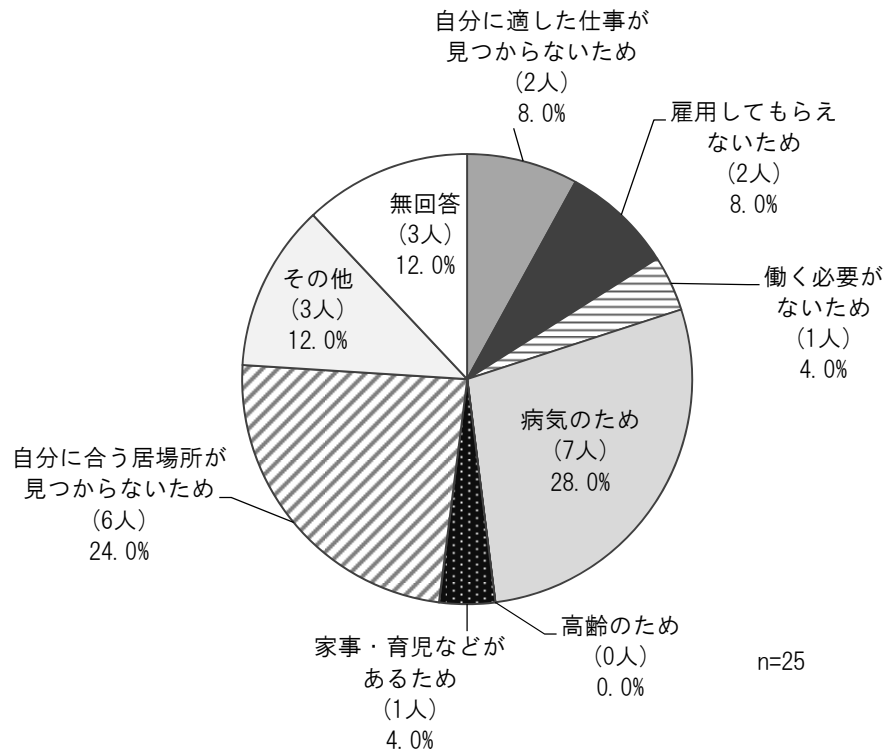
図 幼稚園、保育園、学校に望むこと（複数回答）



**問 13 【問 10 で「主に自宅にいる」と答えた方にお聞きします。】
あなたが、自宅にいる理由は何ですか。（1つに○）**

主に自宅にいると回答した 25 人のその理由は、「病気のため」が 28.0%、「自分に合う場所が見つからないため」が 24.0%となっています。

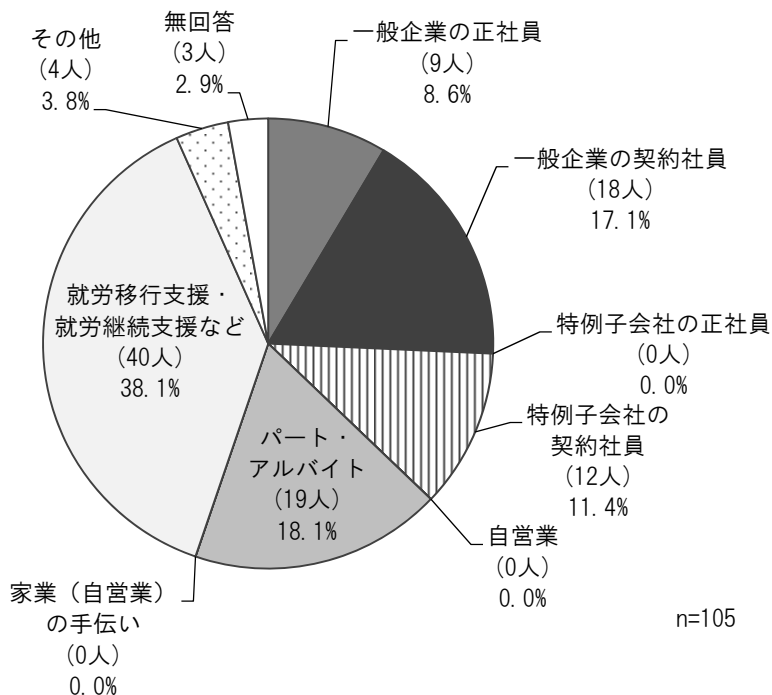
図 自宅にいる理由



問 14 【問 10 で「働いている」と答えた方にお聞きします。】
あなたは、どのように働いていますか。（1つに○）

働いていると回答した 105 人の就業形態は、「就労移行支援・就労継続支援など」が 38.1%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 18.1%、「一般企業の契約社員」が 17.1%となっています。

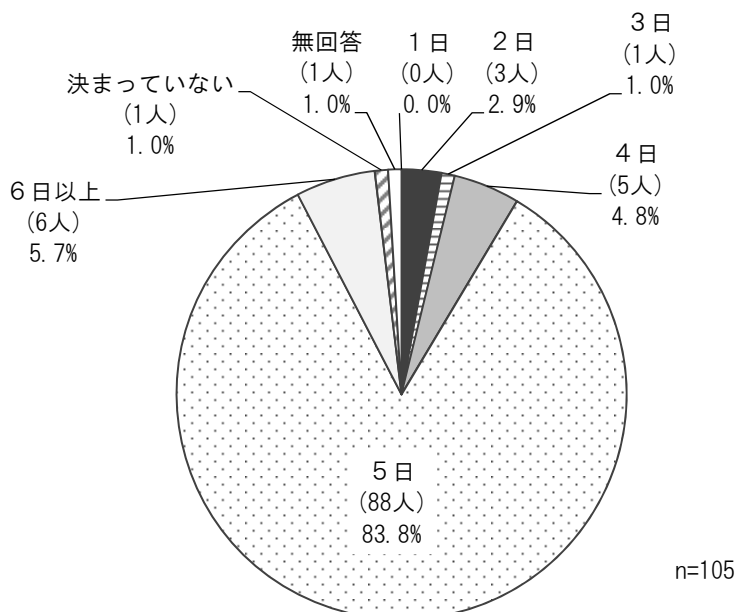
図 就業形態



問 14-1 【働いている方】あなたは、1週間に何日くらい働いていますか。（1つに○）

働いていると回答した 105 人の 1 週間の就労日数は、「5日」が 83.8%で最も高く、次いで「6日以上」が 5.7%、「4日」が 4.8%となっています。

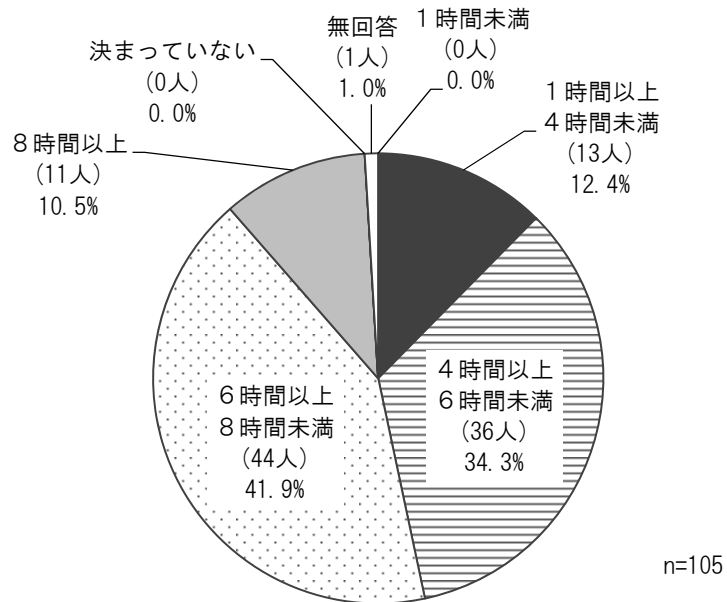
図 1 週間の就労日数



問 14-2 【働いている方】あなたは、1日に何時間くらい働いていますか。
（1つに〇）

働いていると回答した 105 人の 1 日の就労時間は、「6 時間以上 8 時間未満」が 41.9%で最も高く、次いで「4 時間以上 6 時間未満」が 34.3%となっています。

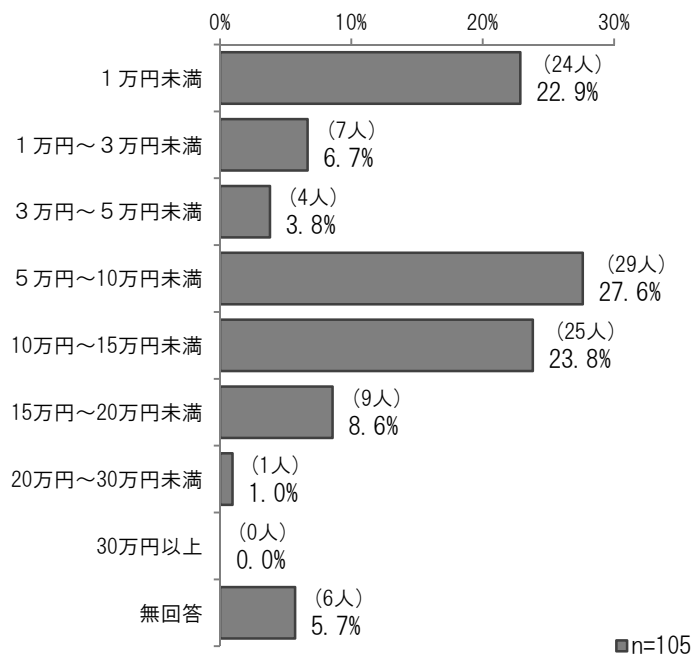
図 1 日の就労時間



問 14-3 【働いている方】あなたの、給与・賃金はどのくらいですか。

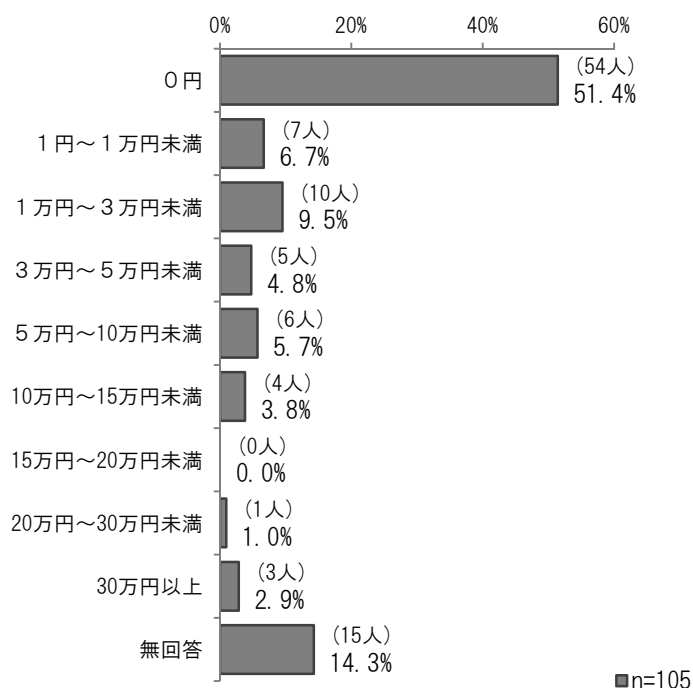
働いていると回答した 105 人の 1 か月の平均給与・賃金は、「5 万円～10 万円未満」が 27.6% で最も高く、次いで「10 万円～15 万円未満」が 23.8%、「1 万円未満」が 22.9% となっています。

図 1 か月の平均給与・賃金



働いていると回答した 105 人の 1 年間の賞与は、「0 円」が 51.4% で最も高く、「1 万円～3 万円」が 9.5% となっています。

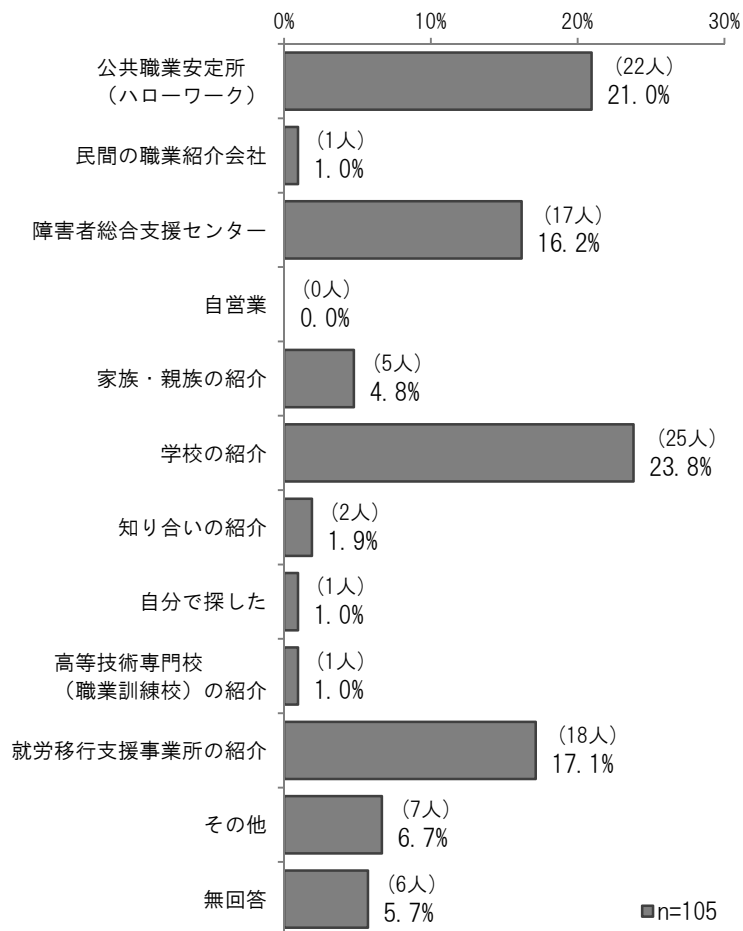
図 1 年間の賞与



問 14-4 【働いている方】あなたは、現在の仕事はどうやって見つけましたか。
（1つに〇）

働いていると回答した 105 人の就職活動手段は、「学校の紹介」が 23.8%で最も高く、次いで「公共職業安定所（ハローワーク）」が 21.0%となっています。

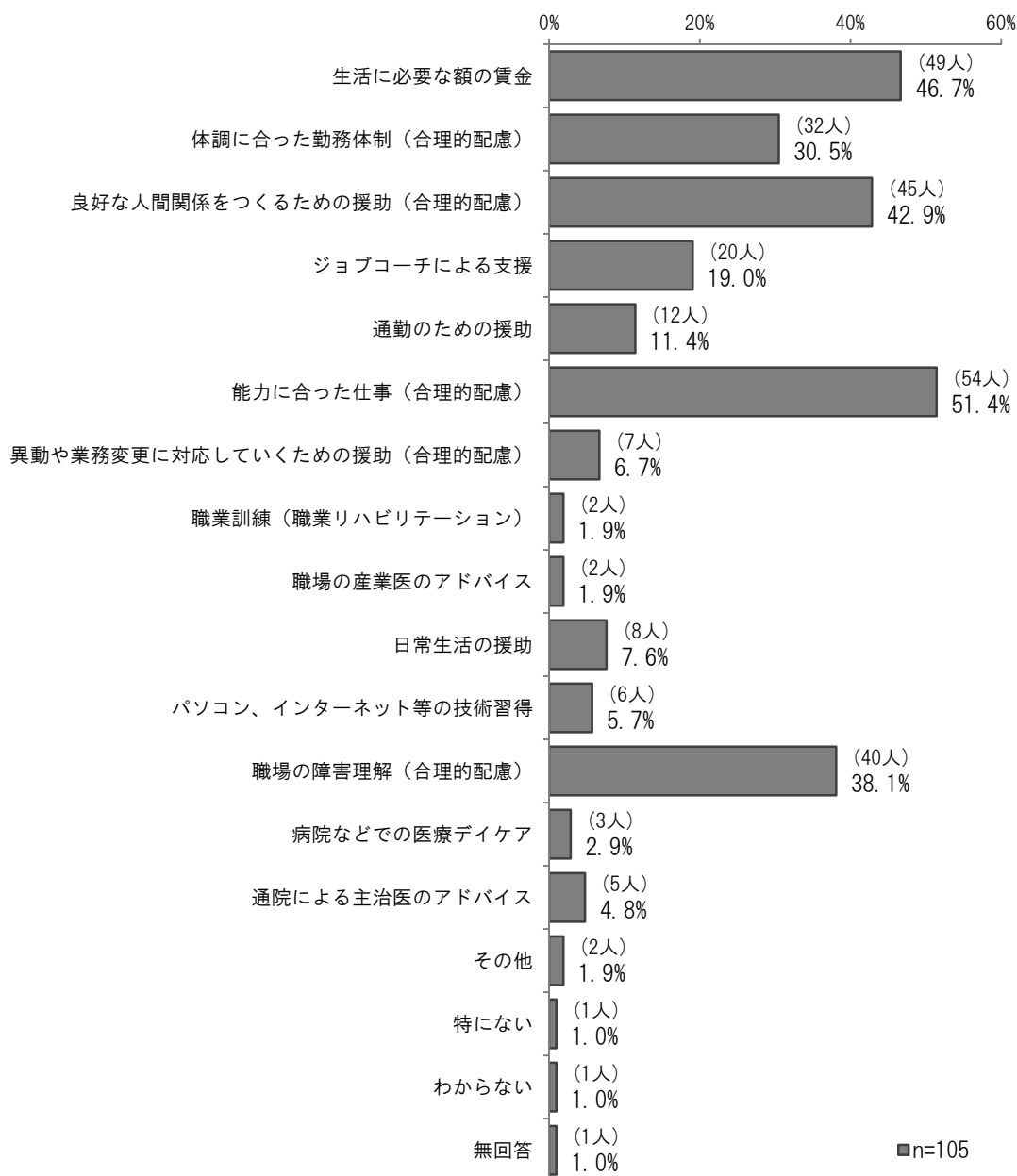
図 仕事をどうやって見つけたか



問 14-5 【働いている方】仕事を続けるためには何が必要だと思いますか。
（3つまで○）

働いていると回答した 105 人が仕事を続けるために必要だと思うことは、「能力に合った仕事（合理的配慮）」が 51.4%で最も高く、次いで「生活に必要な額の賃金」が 46.7%、「良好な人間関係をつくるための援助（合理的配慮）」が 42.9%となっています。

図 仕事を続けるために必要なこと（複数回答）

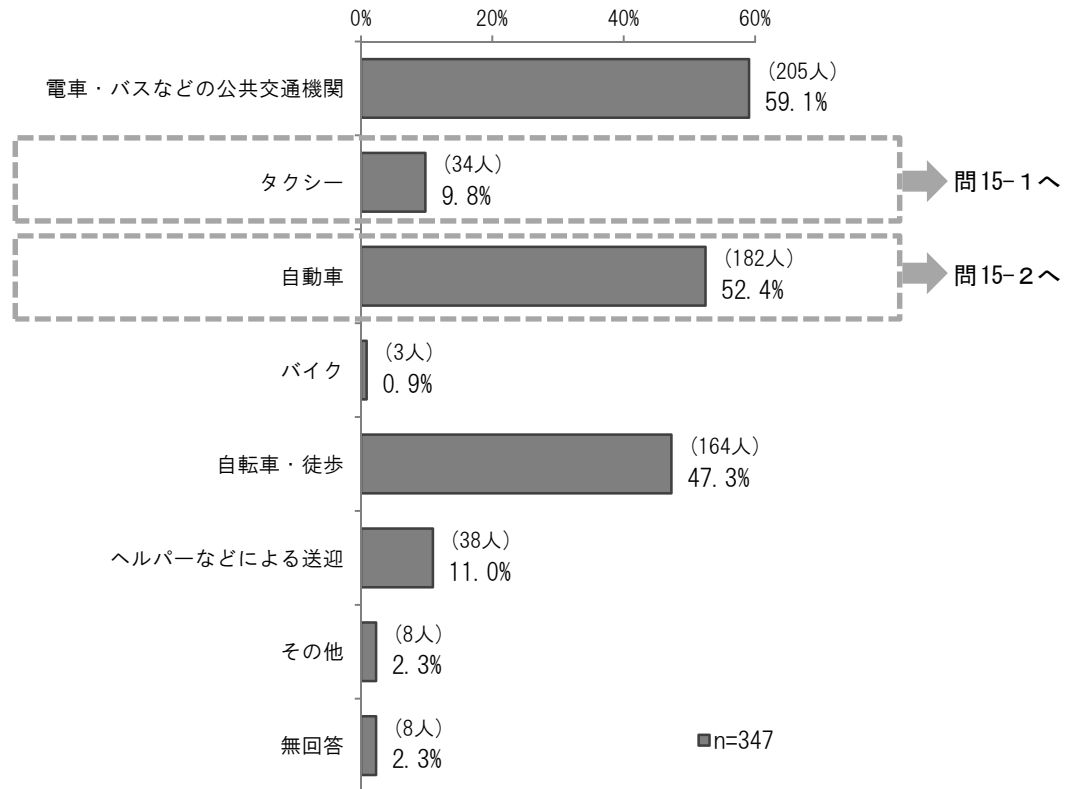


8 外出について

問15 あなたが、外出する際に、よく利用する移動手段は何ですか。（すべてに○）

外出の移動手段は、「電車・バスなどの公共交通機関」が59.1%で最も高く、次いで「自動車」が52.4%、「自転車・徒歩」が47.3%となっています。

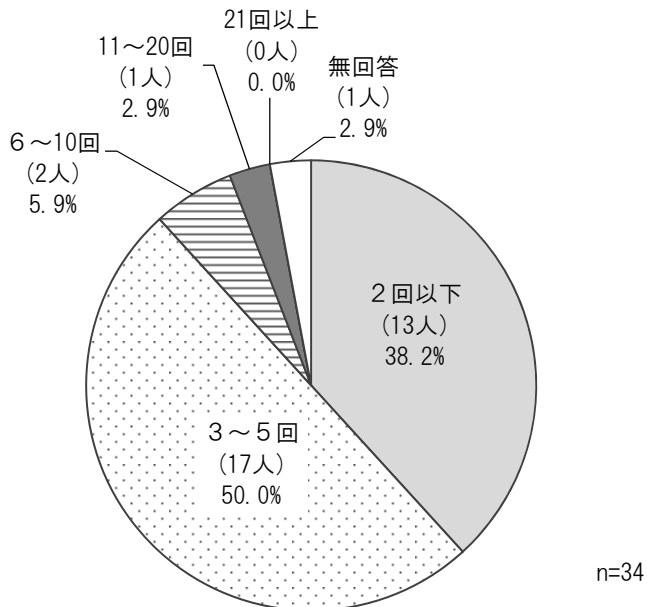
図 外出の移動手段（複数回答）



問 15-1 【問 15 で「タクシー」と答えた方にお聞きします。】
タクシーの1か月の利用回数は何回くらいですか。

タクシーと回答した34人の1か月の利用回数は、「3～5回」が50.0%、「2回以下」が38.2%となっています。

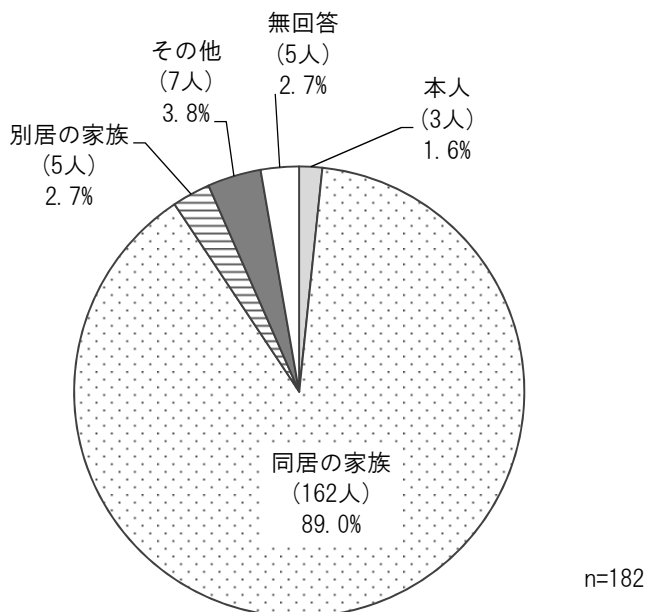
図 1か月の利用回数



問 15-2 【問 15 で「自動車」と答えた方にお聞きします。】
自動車を運転するのは、主に誰ですか。（1つに○）

自動車と回答した182人の主に運転する人は、「同居の家族」が89.0%で最も高くなっています。

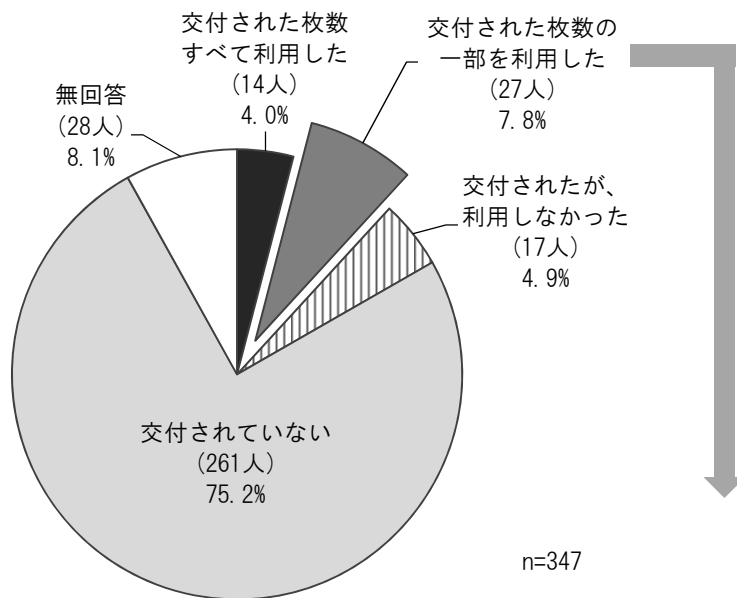
図 自動車を主に運転する人



問 16 あなたは、平成 27 年度に福祉タクシー利用券を利用しましたか。（1つに○）
 「交付された枚数の一部を利用した」と答えた方は、1年間の利用枚数をご記入ください。

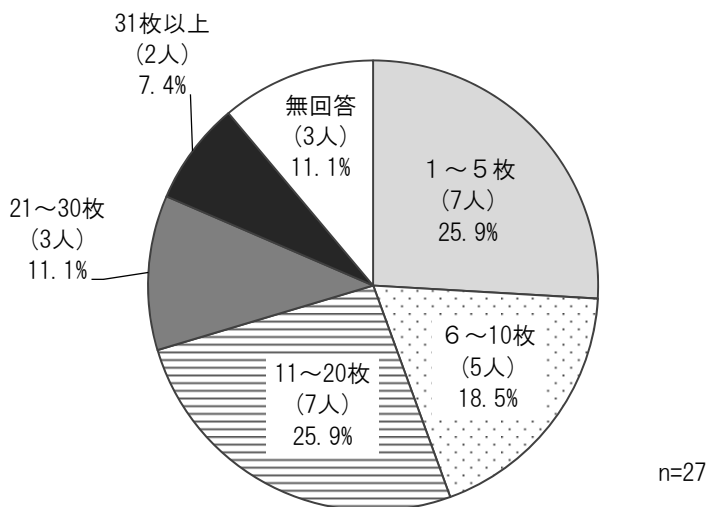
福祉タクシー利用券の利用状況は、「交付されていない」が75.2%で最も高く、「交付された枚数の一部を利用した」が7.8%、「交付されたが、利用しなかった」が4.9%となっています。

図 福祉タクシー利用券の利用状況



交付された枚数の一部を利用した 27 人の 1 年間に利用した枚数は、「1～5枚」「11～20枚」がともに 25.9%となっています。

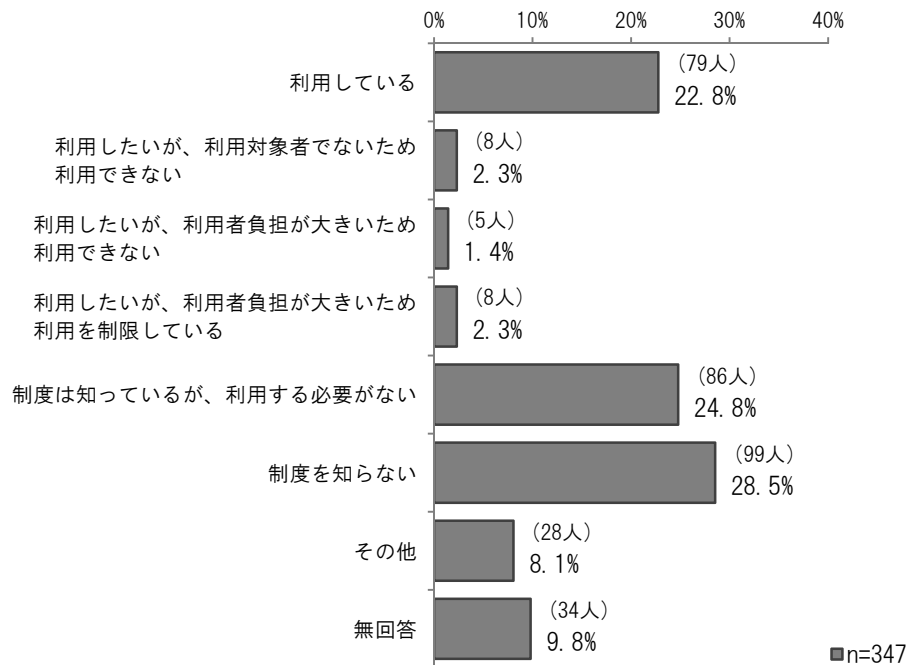
図 【交付枚数の一部を利用した人】 1年間の利用枚数



問 17 あなたは、外出する際に、移動支援事業を利用していますか。（1つに○）
 ※移動支援とは、外出の際にヘルパーを利用することです。

移動支援事業の利用状況は、「制度を知らない」が 28.5%で最も高く、次いで「制度は知っているが、利用する必要がない」が 24.8%、「利用している」が 22.8%となっています。

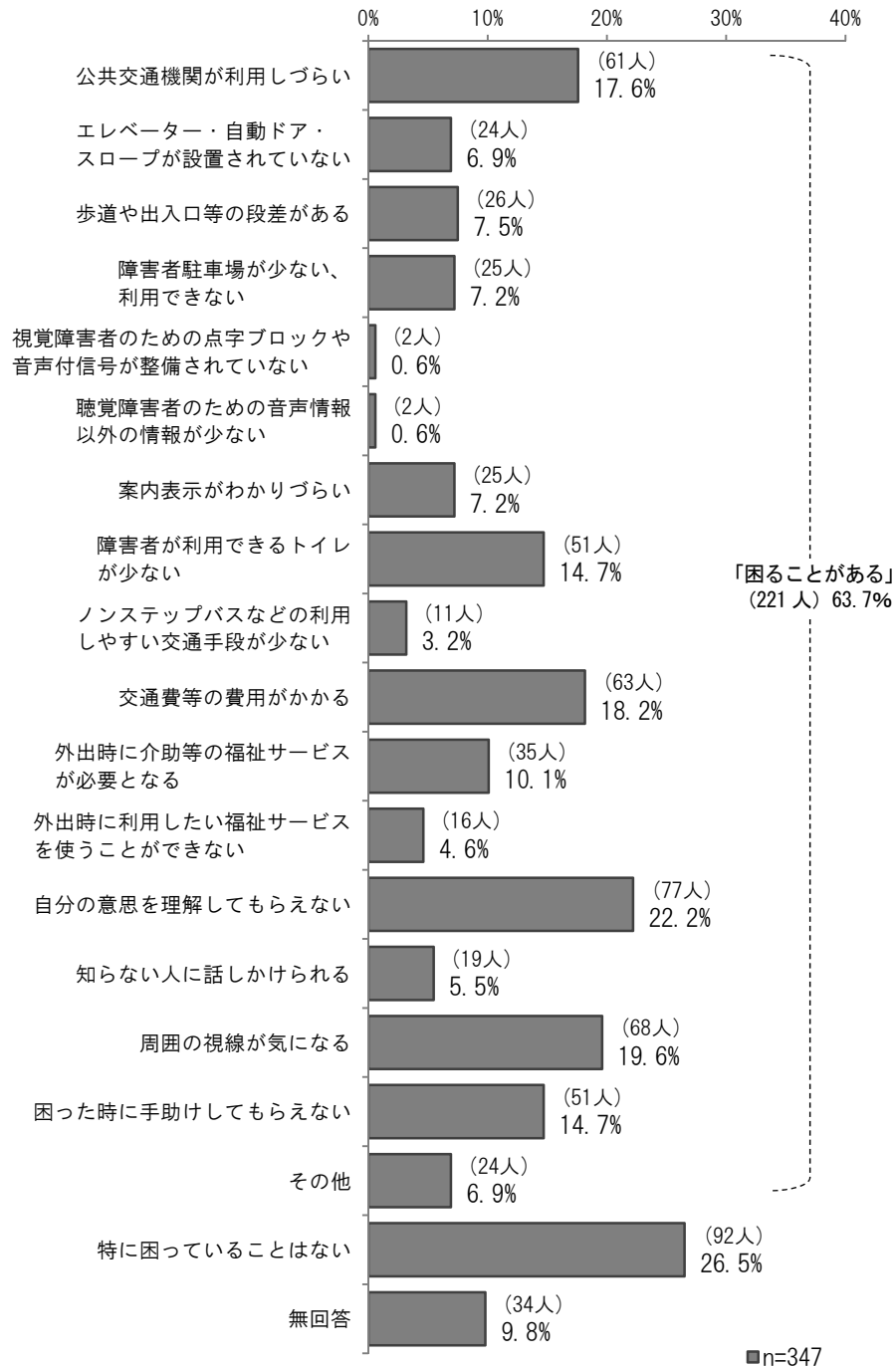
図 移動支援事業の利用状況



問18 あなたは、外出する際に、困ることはありますか。（すべてに○）

外出する際に困ることがあると回答した人は63.7%となっており、その内容は「自分の意思を理解してもらえない」が22.2%で最も高く、次いで「周囲の視線が気になる」が19.6%、「交通費等の費用がかかる」が18.2%となっています。

図 外出する際に困ること（複数回答）



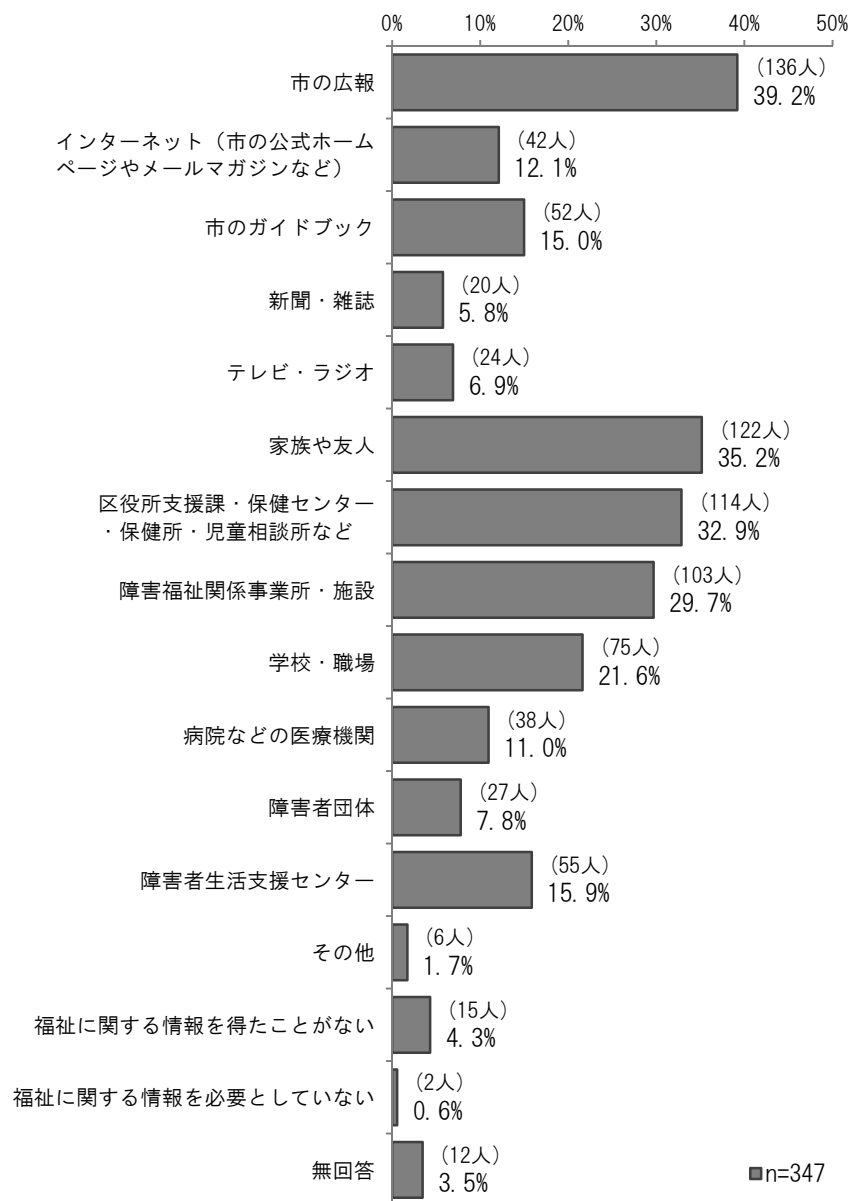
※「困ることがある」=100%－「特に困っていることはない」－「無回答」

9 情報について

問 19 障害福祉に関する情報は、どこから得ますか。（すべてに○）

障害福祉に関する情報を得るところは、「市の広報」が 39.2%で最も高く、次いで「家族や友人」が 35.2%、「区役所支援課・保健センター・保健所・児童相談所など」が 32.9%となっています。

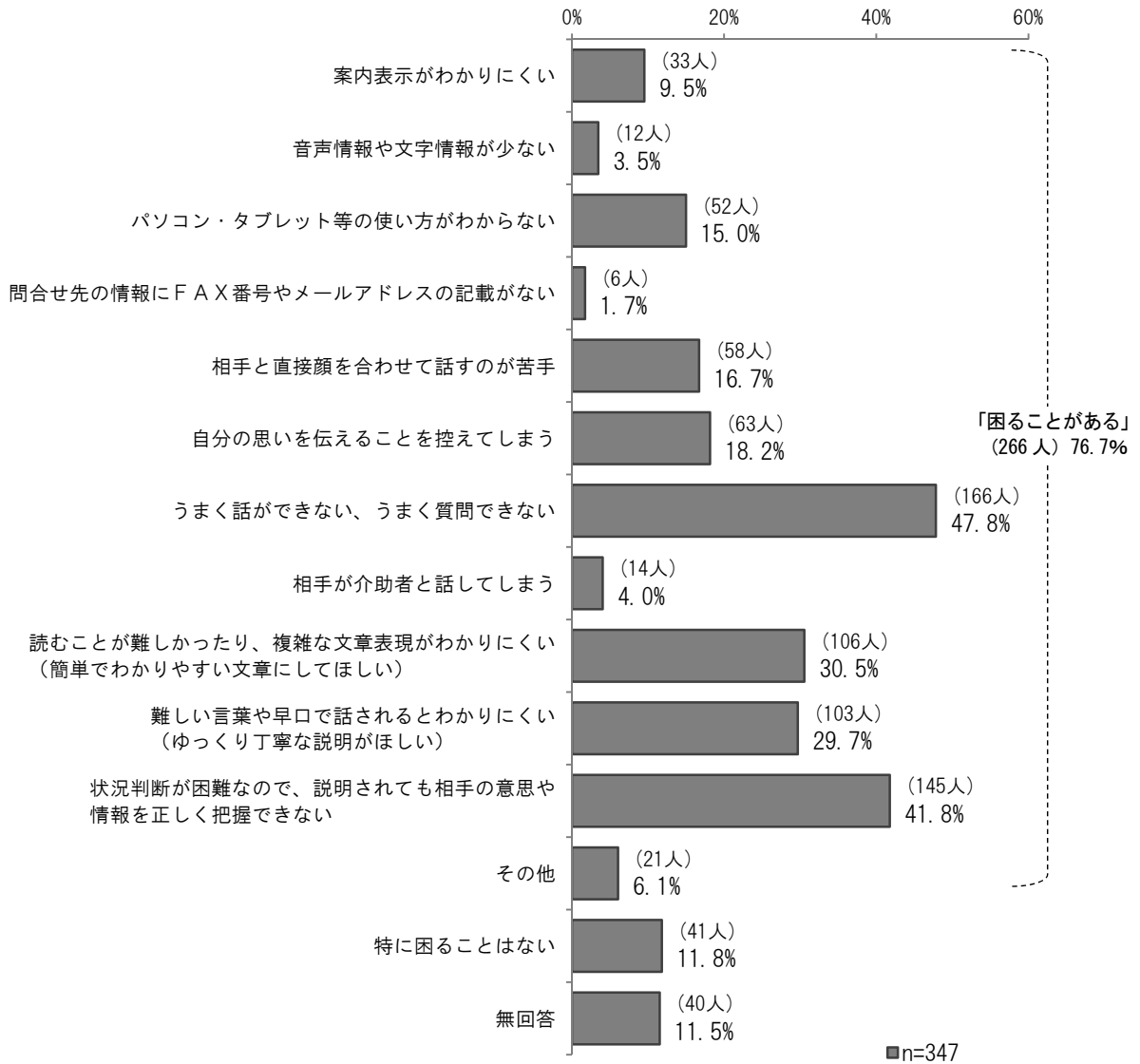
図 障害福祉に関する情報を得るところ（複数回答）



問 20 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとるうえで困ることはありますか。（すべてに○）

情報入手やコミュニケーションをとるうえで困ることがあると回答した人は76.7%で、その内容は「うまく話ができない、うまく質問できない」が47.8%、「状況判断が困難なので、説明されても相手の意思や情報を正しく把握できない」が41.8%、「読むことが難しかったり、複雑な文章表現がわかりにくい（簡単でわかりやすい文章にしてほしい）」が30.5%となっています。

図 情報入手やコミュニケーションをとるうえで困ること（複数回答）



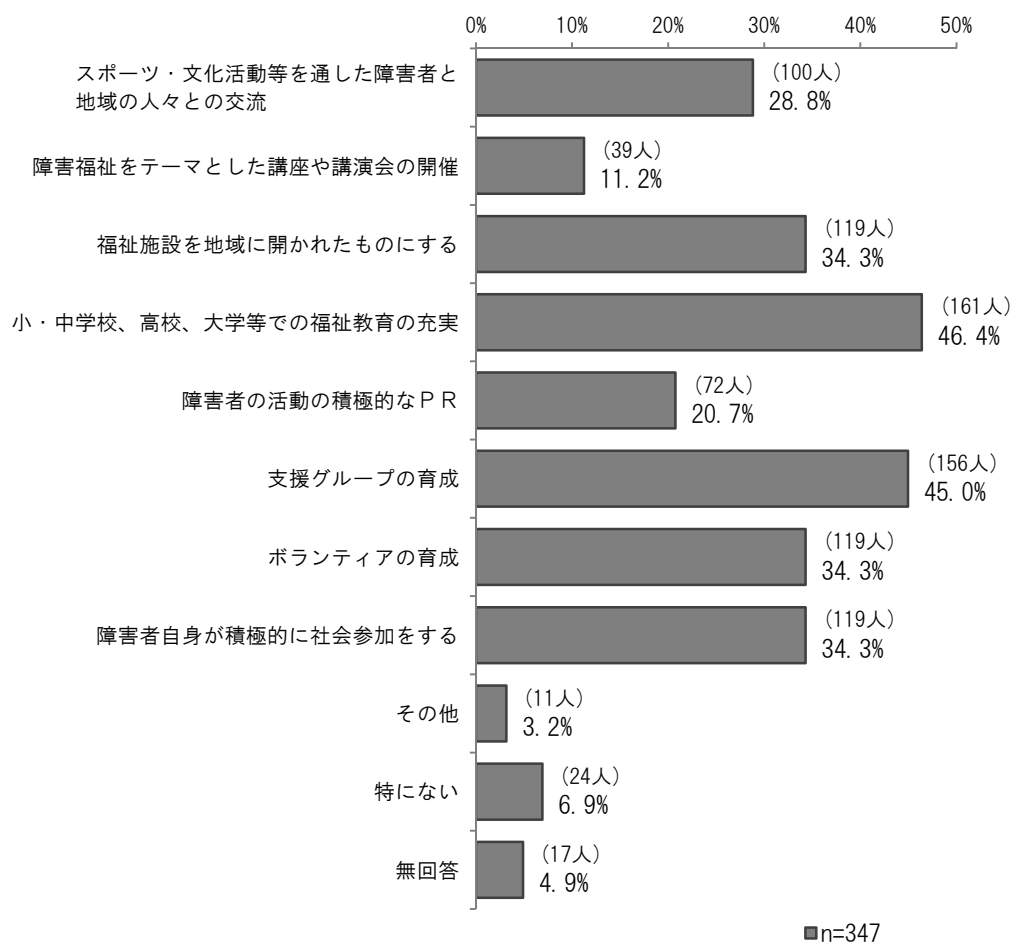
※「困ることがある」=100%－「特に困ることはない」－「無回答」

10 障害者への理解について

問 21 障害者への理解を深めるために力を入れるべきことは何だと思いませんか。
（すべてに○）

障害者への理解を深めるために力を入れるべきことは、「小・中学校、高校、大学等での福祉教育の充実」が46.4%で最も高く、次いで「支援グループの育成」が45.0%となっています。

図 障害者への理解を深めるために力を入れるべきこと（複数回答）



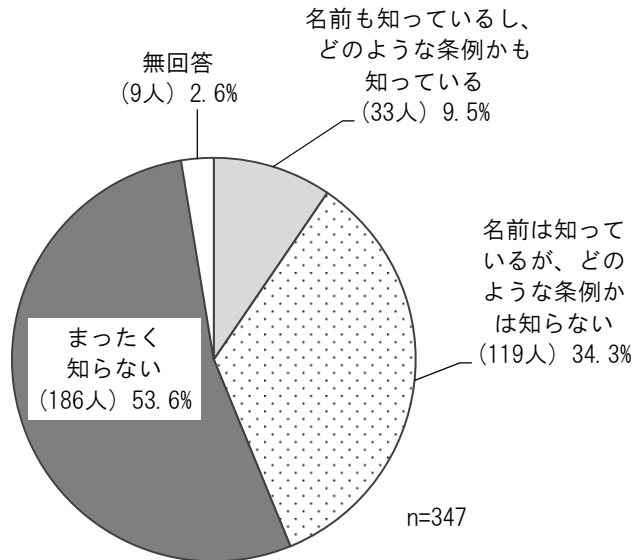
「その他」の主な内容

- ・ 奇声をあげたり、周りの人を不快にしまうこともあるが、頑張って生きてることを知ってほしい。
- ・ 一般の学校、社会等で発達障害の理解をもっと進めてほしい。
- ・ 小さい時から学校を分けないで一緒に生活すること。

問 22 さいたま市では、障害者への虐待や差別の禁止を掲げた「誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例（ノーマライゼーション条例）」を施行しています。あなたは、このことについて知っていますか。（1つに○）

ノーマライゼーション条例の認知度は、「名前も知っているし、どのような条例かも知っている」が9.5%、「名前は知っているが、どのような条例かは知らない」が34.3%となっています。

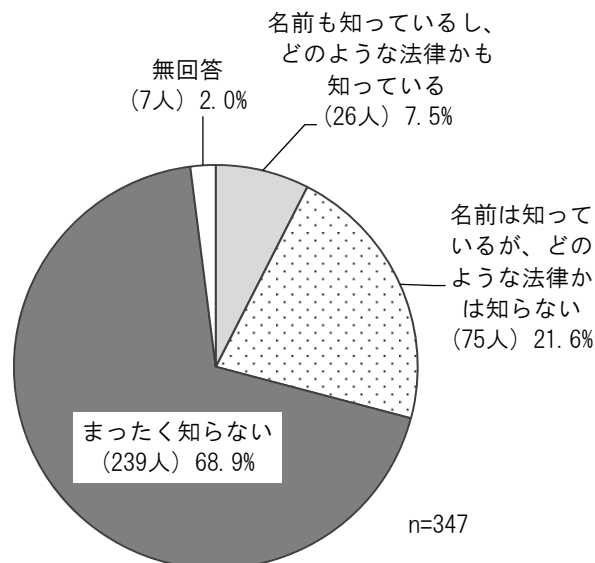
図 ノーマライゼーション条例の認知度



問 23 障害者に対する不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供を差別と規定する障害者差別解消法が平成 28 年 4 月に施行されました。あなたは、このことについて知っていますか。（1つに○）

障害者差別解消法の認知度は、「名前も知っているし、どのような法律かも知っている」が7.5%、「名前は知っているが、どのような法律かは知らない」が21.6%、「まったく知らない」が7割弱となっています。

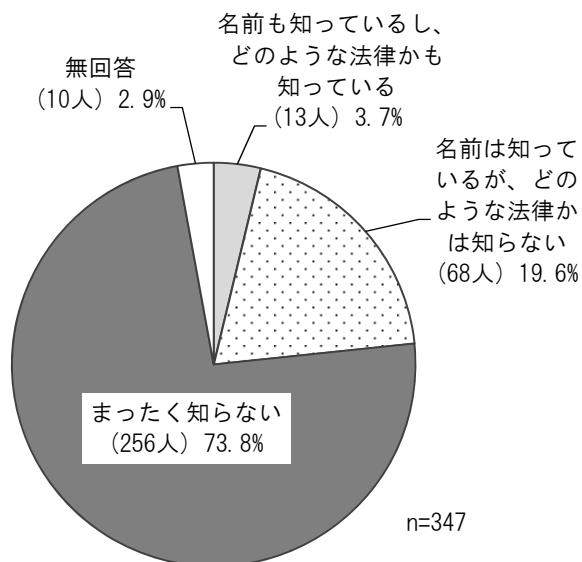
図 障害者差別解消法の認知度



問 24 雇用の分野における障害者に対する差別の禁止及び障害者が職場で働くに当たっての合理的配慮の提供義務を定めるとともに、精神障害者を法定雇用率の算定基礎に加える等の措置を講じた改正障害者雇用促進法が平成 28 年 4 月に施行されました。あなたは、このことについて知っていますか。（1つに○）

改正障害者雇用促進法の認知度は、「名前も知っているし、どのような法律かも知っている」が 3.7%、「名前は知っているが、どのような法律かは知らない」が 19.6%となっています。

図 改正障害者雇用促進法の認知度

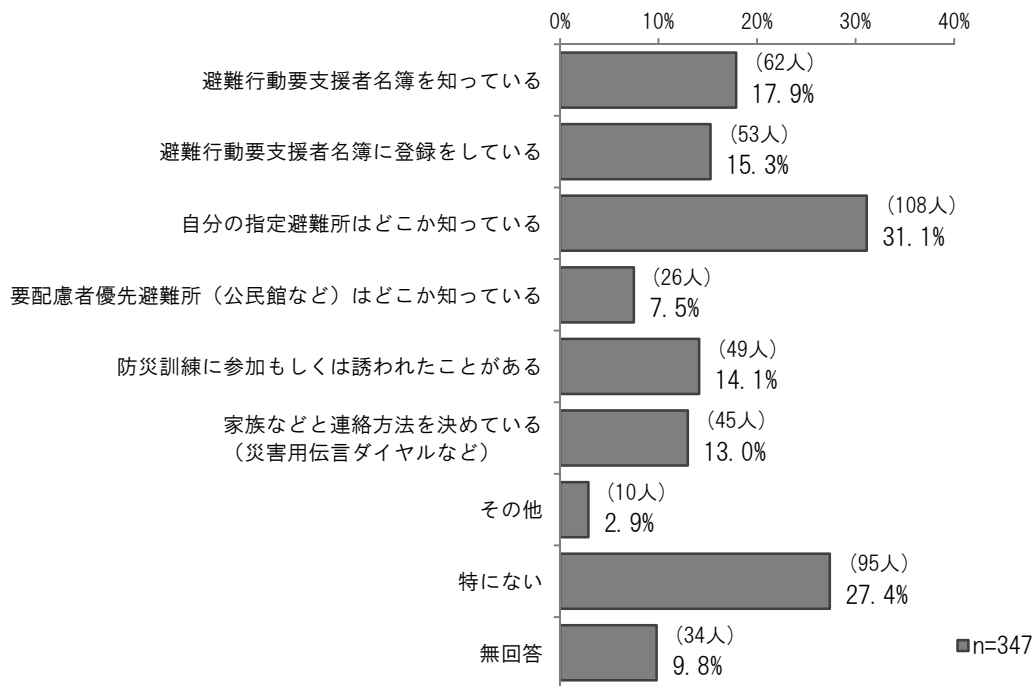


11 災害時の対応について

問 25 災害の際の取組について、あなたの知っていることや経験したことはありますか。（すべてに○）

災害の際の取組について知っていることや経験したことは、「自分の指定避難場所はどこか知っている」が 31.1%で最も高く、次いで「避難行動要支援者名簿を知っている」が 17.9%となっています。一方、「特にない」が 27.4%となっています。

図 災害の際の取組について知っていることや経験したこと（複数回答）



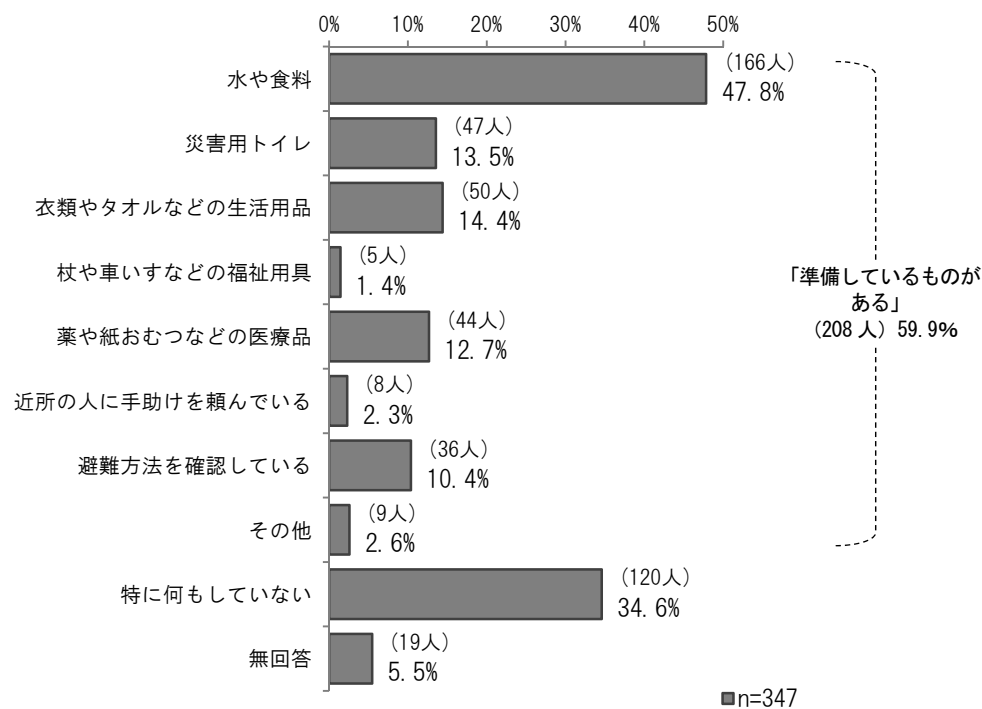
「その他」の主な内容

- ・福祉避難所の開設場所を調べてある。
- ・作業所にて定期的に訓練している。
- ・自分の指定避難場所、要配慮者優先場所のことは知らない。

問26 災害が起こった時に備え、準備しているものはありますか。（すべてに○）

災害に備えて準備しているものがあると回答した人は 59.9%で、その内容は「水や食料」が 47.8%、「衣類やタオルなどの生活用品」が 14.4%となっています。一方、「特に何もしていない」が 34.6%となっています。

図 災害に備えて準備しているもの（複数回答）



※「準備しているものがある」=100%－「特に何もしていない」－「無回答」

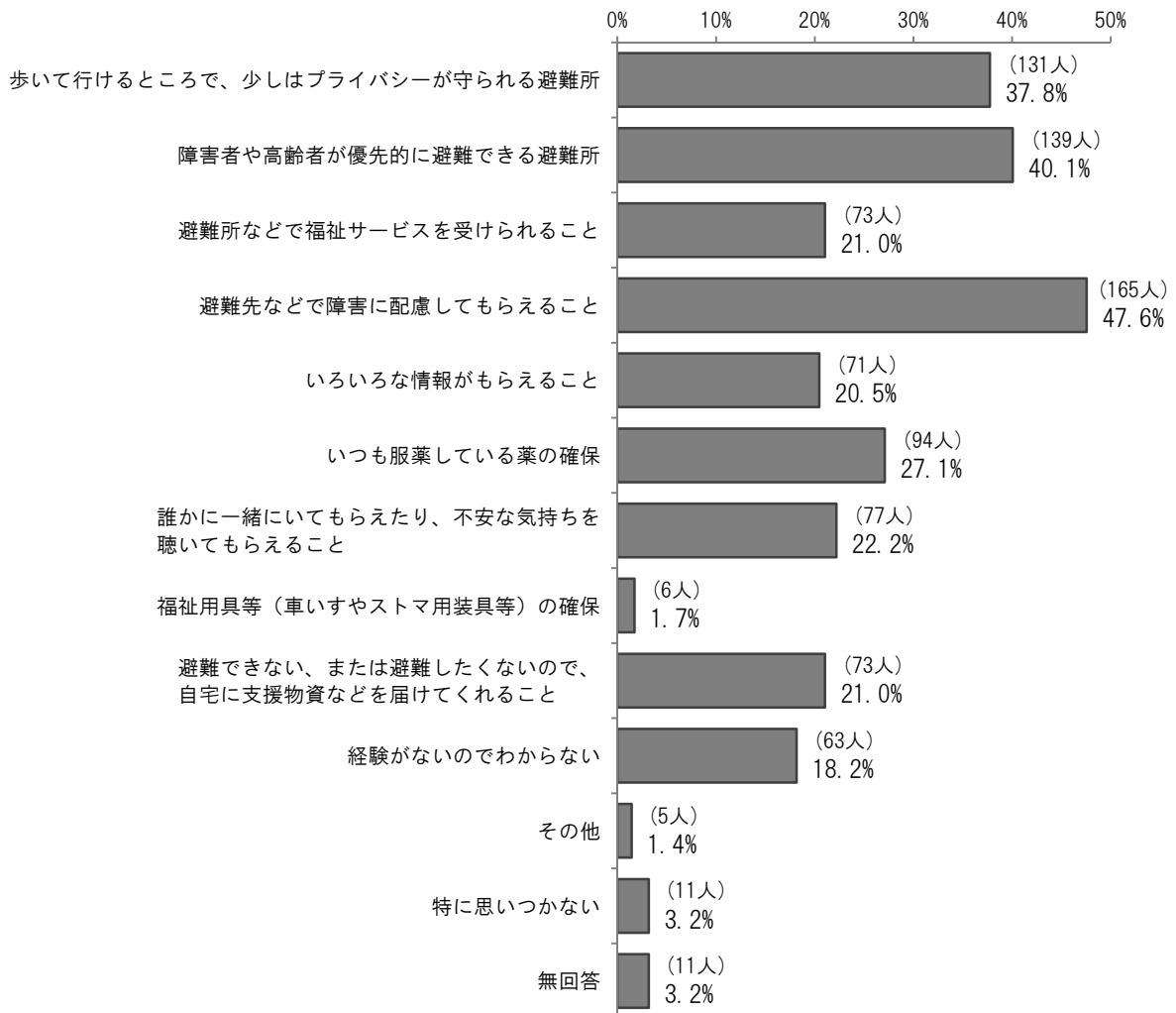
「その他」の主な内容

- ・現金、通帳等
- ・会社の安否確認制度。
- ・家の中での安全な場所の確認

問 27 あなたは大きな災害があった時にどんな支援があったらいいと思いますか。
（3つまで○）

大災害時に望む支援は、「避難先などで障害に配慮してもらえること」が47.6%、「障害者や高齢者が優先的に避難できる避難所」が40.1%、「歩いて行けるところで、少しはプライバシーが守られる避難所」が37.8%で上位となっています。

図 大災害時に望む支援（複数回答）



■n=347

「その他」の主な内容

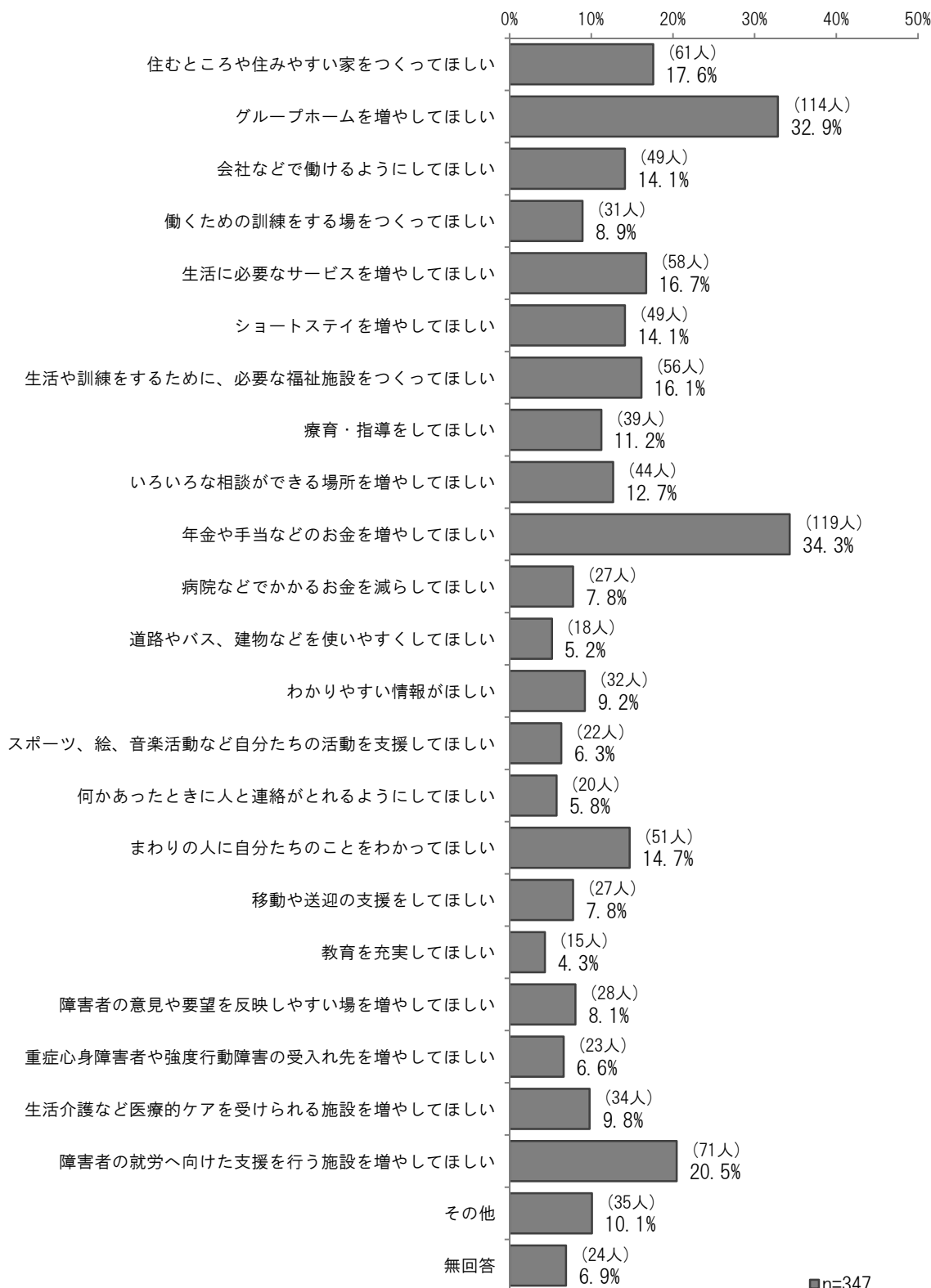
- ・障害者だけでなく、介助者も同様に扱われることを重視してほしい。
- ・吸引器等の電源の確保。

12 障害者福祉施策への要望について

問 28 障害者福祉施策に対して望むこと、取り組んでほしいことはありますか。
（3つまで○）

障害者福祉施策に対して望むこと、取り組んでほしいことは、「年金や手当などのお金を増やしてほしい」が34.3%で最も高く、次いで「グループホームを増やしてほしい」が32.9%となっています。

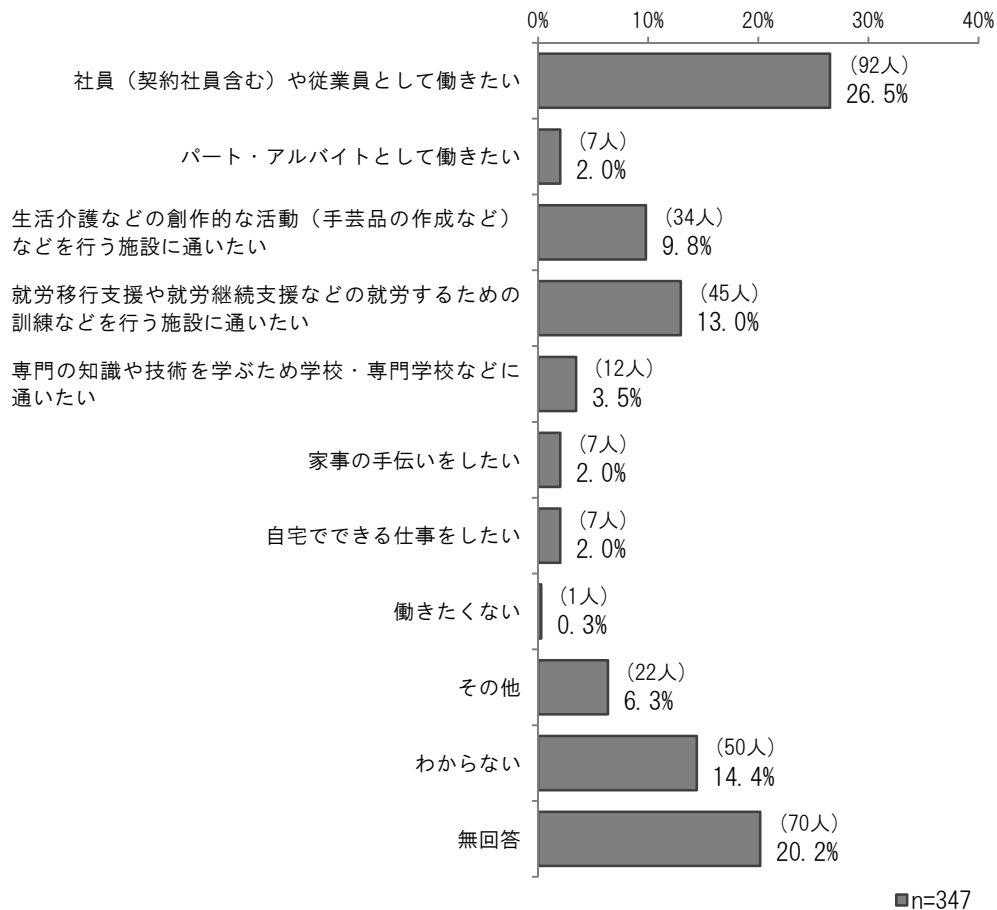
図 障害者福祉施策に対して望むこと、取り組んでほしいこと（複数回答）



問 29 あなたは、今後（未成年の方は、教育課程が修了した後）どのようにしたいですか。（1つに〇）

今後どのようにしたいかは、「社員（契約社員含む）や従業員として働きたい」が 26.5%で最も高く、「就労移行支援や就労継続支援などの就労するための訓練などを行う施設に通いたい」が 13.0%となっています。

図 今後どのようにしたいか

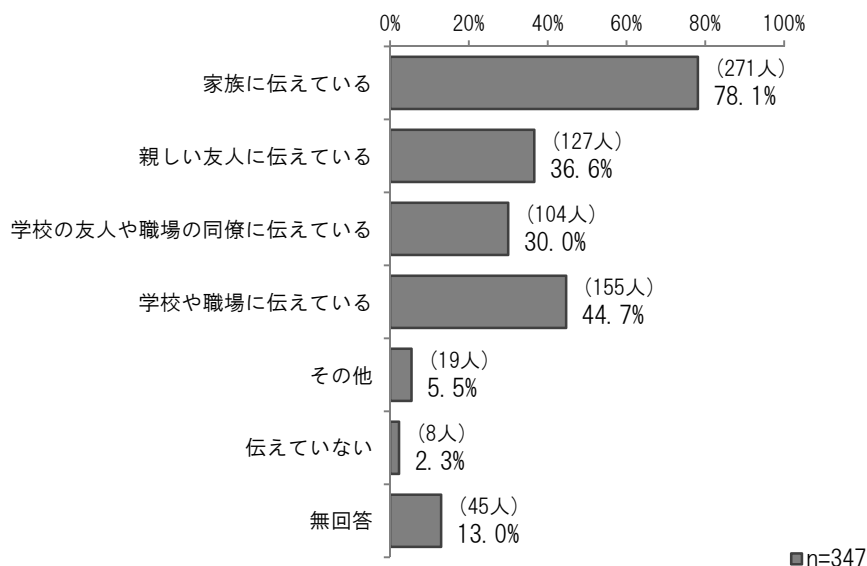


13 障害や病気があることについて

問 35 あなたは、障害者手帳を持っていること、または障害や病気があることを周囲に伝えてありますか。（すべてに○）

障害や病気があることを周囲に伝えているかは、「家族に伝えている」が78.1%、「学校や職場に伝えている」が44.7%、「親しい友人に伝えている」が36.6%となっています。

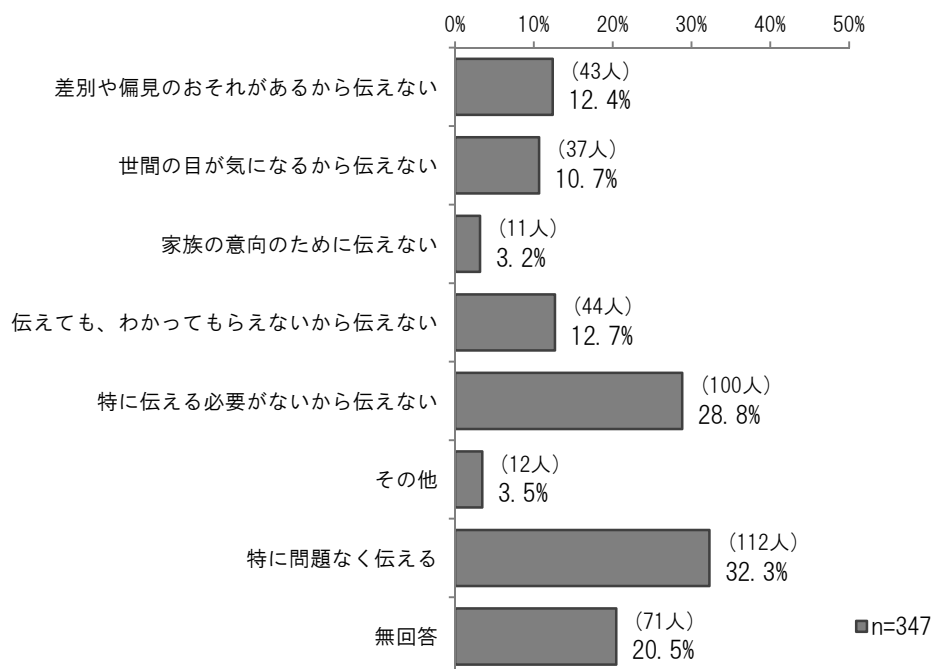
図 障害や病気があることを周囲に伝えているか（複数回答）



問 36 あなたが障害者手帳を持っていること、または障害や病気があることを周囲に伝えないことはありますか。また、それはどんな理由ですか（すべてに○）

障害や病気があることを周囲に伝えることについては、「特に問題なく伝える」が32.3%、「特に伝える必要がないから伝えない」が28.8%となっています。

図 障害や病気があることを周囲に伝えないことがあるか、またその理由（複数回答）



問 37 この調査を通じて、書ききれなかったことや、ご意見、ご感想などがありましたら、自由にお書きください。（ご家族の方がお書きになっていただいても構いません。）

【抜粋（原文のとおり）】

- ・入所から地域へという考え方があるようですが、現在暮らしている入所施設では、地域へ出かけたり、家族と職員との交流（入所者のことを一緒に考える場）があり、仕事、余暇活動、等、利用者のことを考えてくれている。（A、32歳）
- ・今、息子は高校一年で高校生活の間に進路を決めていかないといけないので、福祉事業所、事業団の見学に行っていますが、どこも定員はいっぱい息子に合ったところへ希望どおり行くことができるのか不安です。（A、15歳）
- ・障害児を授かって育てるにあたり、特別な心構えは必要なく、ありのまま受け入れて彼のペースで成長するのを見守るスタンスでいます。「障害児だ」と身構えてしまうと彼の良いところは見えなくなってしまいうように思います。（B、4歳）
- ・息子は両親が亡くなった場合はグループホームに入りたいと思っています。一人で生活するよりみんなと一緒に過ごしたいと言っています。グループホームの見学など自由に出来るよう見学会など行ってもらえると助かります。（C、18歳）
- ・ノーマライゼーションと言っても、日本人は障がい者（特に知的）に対しては、差別や偏見が多く住みづらい国である。デンマークは、障がいを1つの個性としてみんながあたり前の様に暮らしていて、「自立」していくこと、すべての人が、「共生」の社会であり、平等に助け合う。どんな立場であれだれでも幸せを求められる社会を作るよう努力している感じがします。（A、21歳）
- ・児童発達支援センターに通っているが、車で30分以上かかるので、通い続けるのが大変。また、今後学校へ入学するにしても、どこも遠く、災害時のことを考えると不安もある。
（A、3歳）
- ・特別支援学校高等部を卒業して、福祉的就労（作業所）しか選びようがなかったが、社会にいきなりで前に、専攻科のようなところがあればいいと思う。学校で少ない実習の中からその子に合った職場を決めるのはむずかしい。もっと専門的に作業の訓練、挨拶、コミュニケーションのとり方などを訓練できる場所があると良いと思う。（A、21歳）
- ・公共機関の充実を願う。駅までのバスでの手段（コミュニティーバス土、日運休）がない。移動支援の外出時公共バスがあまりなく外出する制限があり、本人の行きたい所への願いがなかなか実現できない。（A、21歳）
- ・息子の将来が不安です（親無き後）グループホーム、生活ホームなど増やして欲しいです。親が活着ている間に安心して預けられる所も増やして欲しいです。（A、21歳）
- ・支援学校教育について。障害が比較的軽度な子が重度の子と同じ教育を受ける事に疑問。比較的軽度な子が入れる特別支援学校を増やしてほしい。能力に合った教育を充実させてほしい。障害者の雇用促進をしてほしい。（C、16歳）
- ・学童保育所を支援学級のある中学校にも設置して欲しい。放課後デイサービスの施設は一杯で入れなかったり、利用出来ても週に何日という感じで全く使えない。うちは、母子家庭で私は毎日働きに出なくては行けないので毎日、預かってもらえる所がないと、仕事が出来ない。（A、12歳）

